

2017年3月期決算

決算説明会

株式会社 **トクヤマ**

2017年4月28日



CONTENTS

- 1 2017年3月期 決算
- 2 2018年3月期 業績予想
- 3 中期経営計画の進捗
- 4 基本方針と施策(部門別)
- 5 補足資料

1 2017年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高
／営業利益



1. 決算概要

連 結 (前 期 比)

(億円未満切捨て)
(億円)

	2016年 3月期	2017年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	3,071	2,991	△80	△3
営業利益	230	397	+166	+72
経常利益	177	339	+162	+92
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,005	521	+1,527	-
1株当たり当期純利益(円)	△289.10	147.78		
為替(円/\$)	120	108		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	42,800	34,700		

定性情報(前期比)

(売上高) 2,991億円(3%減)

増収要因: 半導体用及び太陽電池用多結晶シリコンなどの販売数量増

減収要因: 国産ナフサ価格下落に伴う石化製品の販売価格軟化

(営業利益) 397億円(72%増)

増益要因: トクヤママレーシアの稼働率改善、減価償却費の減少
原燃料価格下落に伴う製造コストの減少

1. 決算概要

連 結 (前 期 比)

(億円)

	2016年 3月期	2017年 3月期	増 減	
			金額	%
売上高	3,071	2,991	△80	△3
営業利益	230	397	+166	+72
経常利益	177	339	+162	+92
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,005	521	+1,527	-
1株当たり当期純利益(円)	△289.10	147.78		
為替(円/\$)	120	108		
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	42,800	34,700		

定性情報(前期比)

(経常利益) 339億円(92%増)

増益要因: 営業利益の増加

減益要因: トクヤママレーシアでの試作費用の増加

(親会社株主に帰属する当期純利益) 521億円(黒字転換)

増益要因: 経常利益の増加

特別損益の改善

トクヤママレーシアの事業譲渡決定に伴う税金費用の減少

1. 決算概要

連 結（前 期 末 比）

（億円）

	2016年 3月末	2017年 3月末	増 減
総資産	4,013	4,244	+230
自己資本	514	1,270	+755
自己資本比率	12.8%	29.9%	+17.1ポイント
有利子負債	2,441	2,139	△301
D/Eレシオ	4.74	1.68	△3.06
ネットD/Eレシオ*	2.38	0.73	△1.66
1株当たり純資産（円）	147.98	305.49	

定性情報（前期末比）

*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

（総資産）

増加項目： 繰延税金資産、受取手形及び売掛金、投資有価証券の増加

（自己資本）

増加項目： 種類株式の発行及び利益積上げによる株主資本の増加

（有利子負債）

減少項目： 社債、長期借入金、短期借入金の減少

2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

(億円)

	2016年3月期		2017年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	878	89	833	131	△44	△5	+42	+48
特殊品	609	△11	677	96	+68	+11	+108	-
セメント	854	58	829	78	△24	△3	+20	+35
ライフアメニティー	576	65	507	56	△69	△12	△9	△15
その他	536	56	521	59	△15	△3	+2	+5
計	3,455	258	3,369	423	△85	△2	+164	+64
セグメント間消去・ 全社費用	△384	△27	△378	△25	+5	-	+1	-
連結決算	3,071	230	2,991	397	△80	△3	+166	+72

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	88	△102	139	△16	+50	+57	+86	-
-----------	----	------	-----	-----	-----	-----	-----	---

② 2018年3月期 業績予想

- 1. 今後の事業環境と取り組み**
- 2. 業績予想**
- 3. セグメント別業績予想**



1. 今後の事業環境と取り組み

化成品

- ◆原油、石炭などの市況価格上昇により、石油化学製品などを中心として原燃料コストが増加傾向にあり、収益環境は変動リスクの大きい状況が続くと予想
 - ・販売価格是正やコスト競争力強化により、安定した収益確保に努める

特殊品

- ◆半導体は、電子機器向けに引き続き好調を維持すると見られる一方で、微細化の進展に伴い、高品質化と安定供給に対する顧客からの要求がますます高まると予想
 - ・半導体関連製品の高品質化対応と需要に対応した生産体制の確立を急ぎつつコストダウンを徹底する。あわせて他社と差別化された高付加価値品の拡販により、収益拡大を目指す

セメント

- ◆民需はオリンピック関連工事などにより緩やかな回復が見込まれるものの、官需は公共投資の減少や工期の長期化により減少し、内需はわずかな増加にとどまると予想
 - ・輸出数量や廃棄物受入数量の増大、製造コストの徹底した削減等により収益確保に努める

ライフアメニティー

- ◆国内市場は緩やかな回復基調が続くことが予想されるものの、海外市場は国際情勢や各国の通商政策の先行き不透明感が増しており、中国や資源国始めとする新興国の景気減速も懸念
 - ・顧客のニーズや市場の変化に対応した製品開発・販売活動に注力し、収益拡大に取り組む

2. 業績予想

連結（予想の前期比）

(億円)

	2017年3月期 実績	2018年 3月期 予想
売上高	2,991	3,000
営業利益	397	360
経常利益	339	320
親会社株主に帰属する 当期純利益	521	130

増 減	
金額	%
+8	+0
△37	△9
△19	△6
△391	△75

1株当たり当期純利益(円)	147.78	36.72
為替(円/\$)	108	105
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	34,700	40,000

定性情報(前期比)

(売上高)

増収要因： 塩ビモノマー、セメント等の販売数量増
石化製品等の販売価格是正

(営業利益)

増益要因： 販売数量の増加
減益要因： 原燃料及び修繕費等のコスト増加

(経常利益)

減益要因： 営業利益の減少

(親会社株主に帰属する当期純利益)

減益要因： トクヤママレーシア譲渡に伴う
特別損失の計上
前期に繰延税金資産を計上

3. セグメント別業績予想

(予想の前期比)

(億円)

	2017年3月期実績		2018年3月期予想		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	833	131	890	130	+56	+7	△1	△1
特殊品	677	96	560	95	△117	△17	△1	△2
セメント	829	78	860	55	+30	+4	△23	△30
ライフアメニティー	507	56	540	40	+32	+6	△16	△29
その他	521	59	520	55	△1	△0	△4	△8
計	3,369	423	3,370	375	+0	+0	△48	△11
セグメント間 消去・全社費用	△378	△25	△370	△15	+8	-	+10	-
連結決算	2,991	397	3,000	360	+8	+0	△37	△9

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	139	△16	17	△5	△122	△88	+10	-
-----------	-----	-----	----	----	------	-----	-----	---

(注)トクヤママレーシアの2018年3月期予想には5月末に予定している譲渡までの2ヶ月間の損益を織り込んでいます。

③ 中期経営計画の進捗

- 1. 目標数値の進捗**
- 2. トクヤママレーシアの譲渡**
- 3. 優先株償還と復配**
- 4. 重点課題の成果と今後の施策**



3 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗

16年度は、トクヤママレーシアの採算改善により大幅増益。17年度以降は、トクヤママレーシアの譲渡が各指標へ一定の影響を与えるものの、経営資源の再配分で目標値以上の改善を目指す

	2015年度	2016年度	2020年度 目標値	コメント(16年度実績)	
売上高	3,071億円	2,991億円	3,350億円	景気回復を背景に数量差はプラス 原料価格下落や円高に伴う単価下落で減収	
営業利益	230億円	397億円	360億円	トクヤママレーシア等の採算改善、 原燃料コストの減少で増益	
ROA	5.7%	9.4%	10%	利益率の増大により改善	
売上高 営業利益率	7.5%	13.3%	10%		
総資産回転率	0.77回転	0.70 回転	1.0回転		
財務指標	CCC	69日	68日	55日	在庫削減等により改善
	D/Eレシオ	4.7倍	1.7倍	1倍	利益蓄積と優先株発行により改善
為替(¥/US\$)	120	108	110		
国産ナフサ価格(¥/kl\$)	42,800	34,700	58,000		

注: CCC(キャッシュコンバージョンサイクル): 売掛債権回転日数 + 棚卸資産回転日数 - 買入債務回転日数、

ROA: 営業利益/総資産で算出

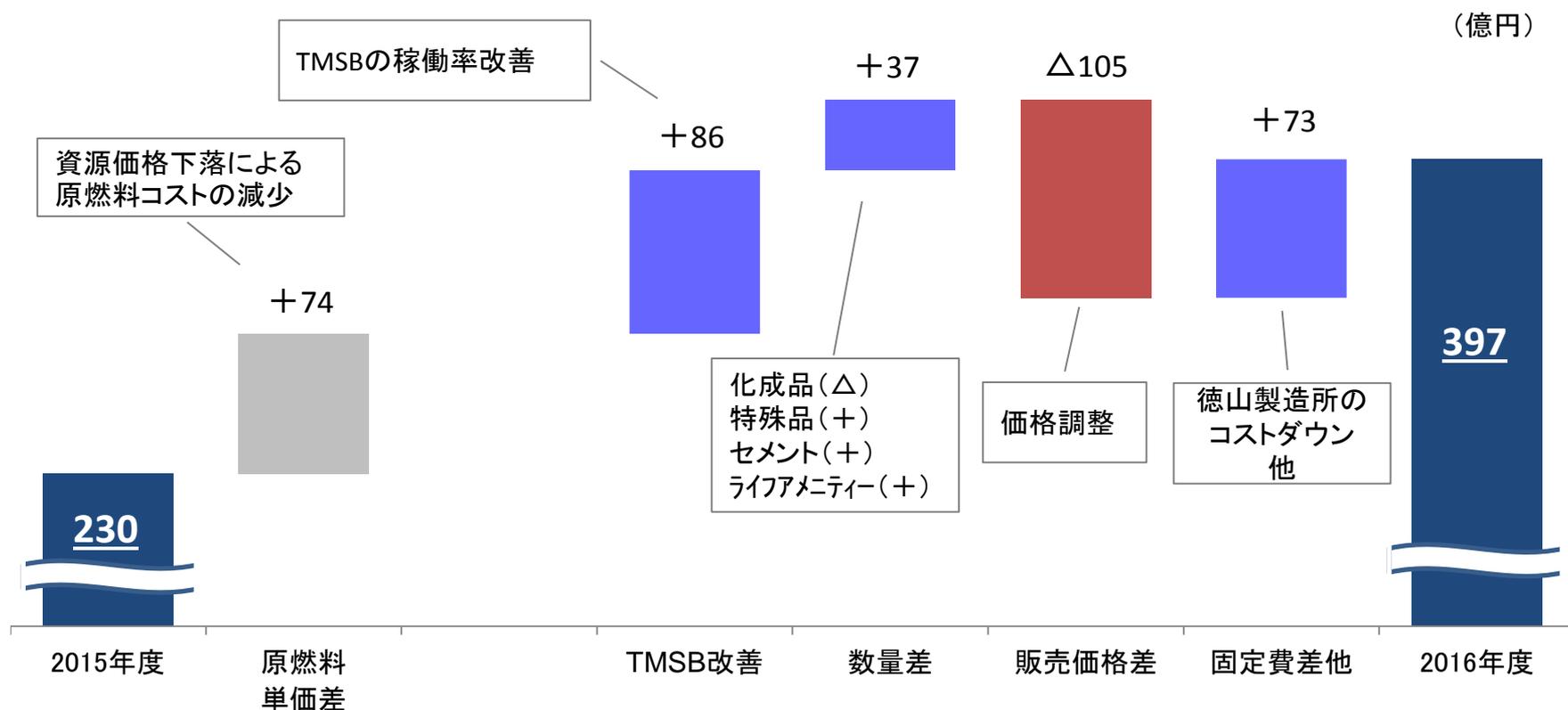
3 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗 (前期比)

資源価格下落による原燃料コスト減少の追い風が続く中、TMSB*の収益改善、ソーダ灰事業の合理化効果等の中計施策の進捗により、最終年度の目標を上回る増益を達成

要因別営業利益増減(2016年度実績)

*TMSB: トクヤママレーシア



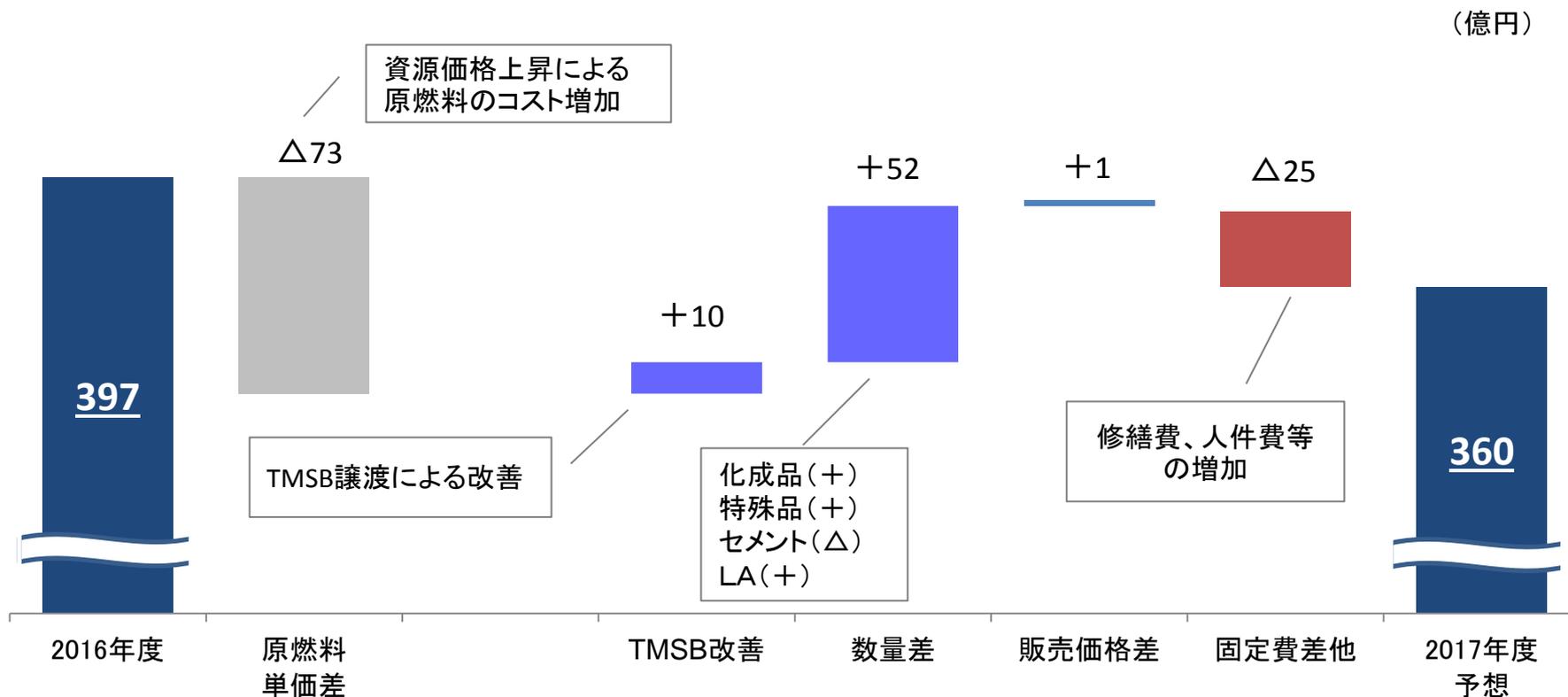
3 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗 (予想の前期比)

資源価格上昇や、修繕費の増加等に伴うによるコストアップを、販売数量増等でカバーし、中計最終年度の利益目標水準を維持

要因別営業利益増減(2017年度予想)

*TMSB: トクヤママレーシア



2. トクヤママレーシアの譲渡

トクヤママレーシアの株式譲渡に関する各国競争当局からの許認可取得が完了。
OCI社への全株式譲渡を2017年5月末に行う予定(当初予定の3月末から変更)

譲渡の進捗

年度	2016年度(17/3)	2017年度(18/3)
実績及び 予定	<ul style="list-style-type: none">▶ 9/28 OCI社への譲渡を決定▶ 10/7 第三者割当増資(1回目) (当社の持分:83.5%)	<ul style="list-style-type: none">▶ 4/26 OCI社がトクヤママレーシア株式の譲受を正式に決議▶ 5/31 第三者割当増資(2回目) (予定) 全持分をOCI社へ譲渡

3. 優先株償還と復配

優先株償還について

トクヤママレーシアの譲渡に関し、関係当局の許認可取得が完了したこと、及び今期業績、次期業績予想に基づき、純資産の相応の回復、充実が図られる見込みであることから、ジャパン・インダストリアル・ソリューションズに発行している優先株の全部（発行総額200億円）を、金銭を対価として取得、消却することを決議。

普通株式への配当（予定）について

2017年度以降、中期経営計画に沿った利益計画の見込みであることから、2018年3月期の中間配当、期末配当について、それぞれ2円の復配を予定。

4. 重点課題の成果と今後の施策

現状認識

外部環境

- グローバルでの景気回復を背景とした素材全般への需要増大
- シェールガス・オイルの普及を背景とする原燃料価格高騰の抑制
- 高速・大容量通信等 次世代ICT普及にむけた、最先端電子部材への需要拡大
- 先進医療や予防・健康増進を支える高機能医療機器への需要拡大

内部状況(課題)

- マレーシアの減損損失で毀損した財務基盤の一層の強化が必要
- 新たな利益成長の原動力の創出が不可欠
- コーポレートガバナンス体制の見直し、改善が課題

4. 重点課題の成果と今後の施策

①組織風土の変革

- 人事評価制度の見直し
- グループ会社人材交流
- 社外人材の積極登用

【2016年度の成果】

- ビジョン浸透のための活動(社長キャラバン他)
- 基幹職人事制度の改定
- 外部専門家による講演会を通じた人材育成

【今後の施策】

- ビジョン浸透のための活動を継続
- 総合人事制度の改定
- 人材育成制度の改革、社外人材の積極採用

4. 重点課題の成果と今後の施策

②事業戦略の再構築

■ 成長事業

先端材料で世界トップ
顧客ニーズを徹底理解し、
特有技術でニーズに応える

■ 伝統事業

競争力で日本トップ
貪欲に効率を追求し、
汎用品市場で勝ち抜く

【2016年度の成果】

- 半導体用多結晶シリコンプラント再稼働、窒化アルミ増産
- 太陽電池用多結晶シリコン、ガスセンサ事業持分譲渡
- ソーダ灰、塩ビ事業合理化、電解フル稼働による収益改善
- セメント輸出増大による稼働率改善
- 徳山製造所部門横断的コスト削減活動「BRIGHTII」の開始
- 財務指標、重要課題に関するPDCA管理の徹底

【今後の施策】

- 半導体用多結晶シリコンの微細化に対応した品質差別化・増産
- 電子工業用高純度薬品（IPA、現像液）の能力増強
- 放熱材製品群のラインナップ拡充、能力増強
- ヘルスケア関連製品の海外展開加速
- アライアンス、M&Aを活用した競争力強化
- 研究開発体制再構築とオープンイノベーションによる事業領域拡大
- IoT、AI活用による業務効率化、プラント運営効率化
- 投資判定基準の見直し、撤退基準導入による経営資源配分の最適化

4. 重点課題の成果と今後の施策

③グループ経営の強化

■ 事業子会社：

グループの成長戦略に貢献する

・人材面の強力なサポート

■ 機能子会社：

コスト削減でグループへ貢献する

・徳山製造所と一体での
コスト削減活動

【2016年度の成果】

- 事業の位置づけ、存在意義を再検証
- フィガロ技研の持分譲渡
- トクヤママレーシアの譲渡決定
- サン・トックスのS&B、A&Tの工場増強、

【今後の施策】

- 事業子会社との一体運営（資本、人材）
- 微多孔質フィルム中国2社、エクセルシャノンの収益改善
- トクヤママレーシアの譲渡完了

4. 重点課題の成果と今後の施策

④財務体質改善

利益の積上げによる
自己資本の回復

財務基盤の早期安定化

将来の成長加速に向けた
M&A等への機動的対応への準備

【2016年度の成果】

- 優先株発行による財務基盤強化
- 有利子負債301億円削減、D/Eレシオ3.06ポイント減少(改善)

【今後の施策】

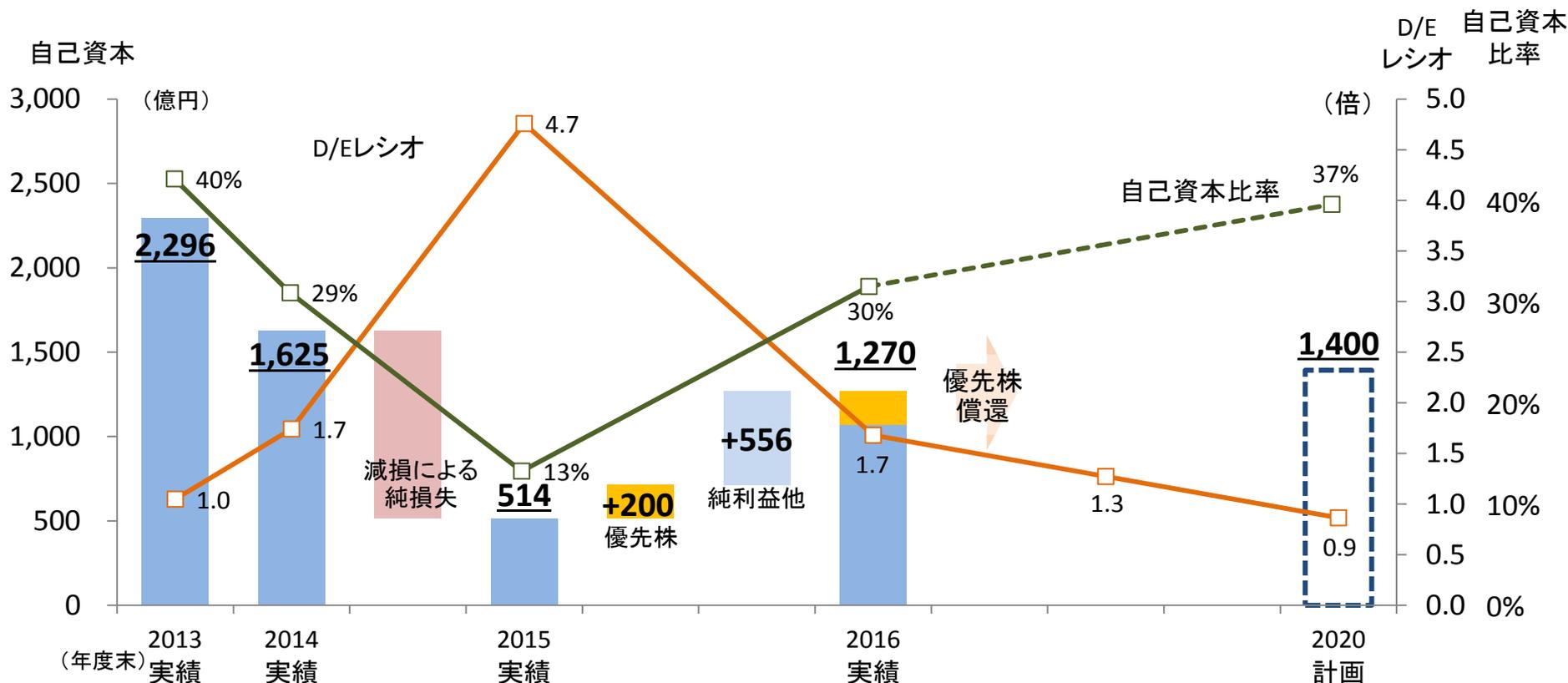
- 有利子負債の更なる削減、金利負担軽減
- 事業収益積上げによる資本充実
- 中計業績の見通しに基づく優先株償還

4. 重点課題の成果と今後の施策

財務指標

2017年度に優先株200億円の全額償還を実施、利益の積み上げにより財務目標の達成を目指す

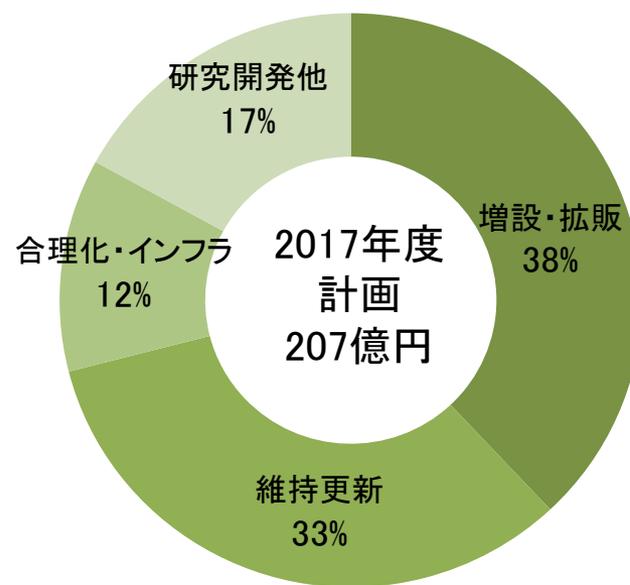
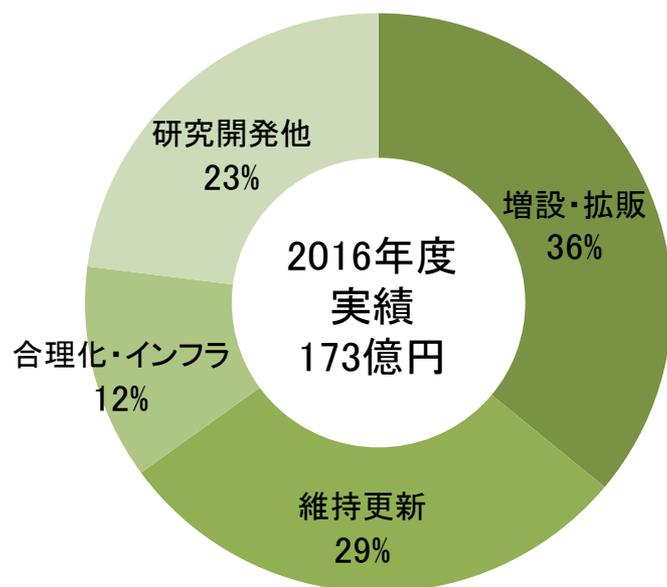
自己資本、財務指標の推移



4. 重点課題の成果と今後の施策

設備投資

設備投資の内訳



主な成長投資案件

(サン・トックス)ホリオレフィンフィルム最新鋭設備導入

半導体関連材料の品質改善投資

窒化アルミ粉末増産

(サン・トックス)ホリオレフィンフィルム最新鋭設備導入

(A&T)江刺工場増設

(周南バルク)置場の拡張

4. 重点課題の成果と今後の施策

研究開発

研究開発活動の実績、計画

2016年実績（75億円）

2017年度計画（90億円）

新規

- ・深紫外LED：
関連技術・設備をスタンレー電気へ譲渡⇒材料となる窒化アルミ基板の開発・改良
- ・中性子用シンチレータ：
顧客評価の実施と製造プロセスの改善

成長事業

特殊品
ライフアメニティー

- ・還元窒化法の深堀による窒化ホウ素等の新規放熱材料の開発
- ・有機・無機ハイブリッド製品の開発（電子材料・ヘルスケア分野）

伝統事業

化成品
セメント

- ・既存製品のプロセス改良、各種グレード開発
- ・廃石膏ボード他リサイクル技術開発
- ・各種インフラ補強・補修材料の開発

Chemistry with a heart

TOKUYAMA



4 基本方針と施策（部門別）

1. 化成品セグメント
2. 特殊品セグメント
3. セメントセグメント
4. ライフアメニティーセグメント
5. 徳山製造所

4 基本方針と施策(部門別)

1. 化成品セグメント

基本方針

●顧客ニーズに沿った、高品質及びコスト競争力に優れた基礎化学素材及びサービスを提供することにより、顧客の事業発展に貢献するとともに、当社の中核事業として安定的かつ、継続的な収益向上に貢献する

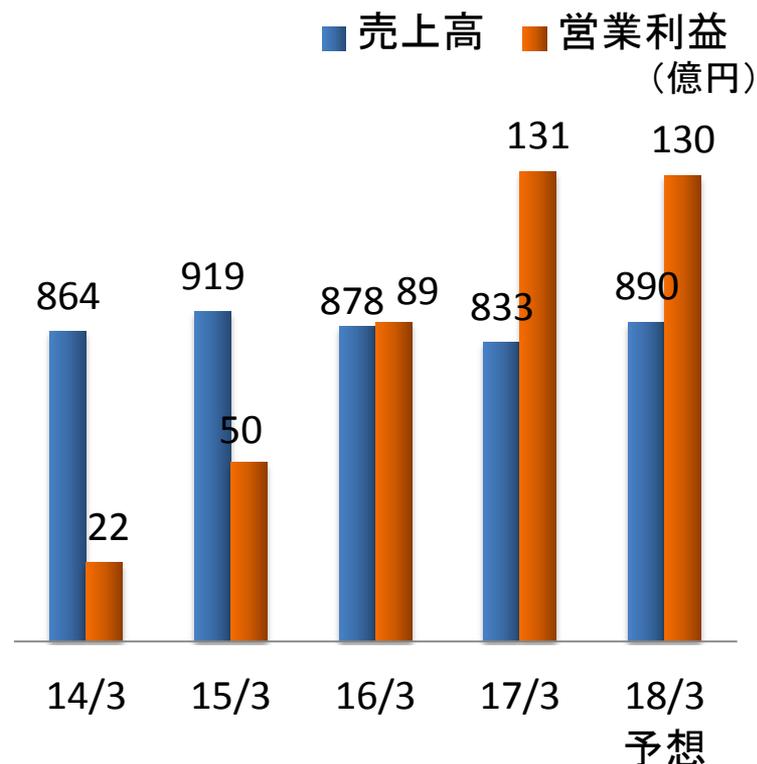
施策

<ソーダ・塩カル事業>

- 国内単一メーカーとして、安定供給・品質を維持
- 融雪向け粒状塩化カルシウムの増産

<クロルアルカリ・塩ビ事業>

- 苛性ソーダ・塩素の更なる原価低減を目指した自家発電+電解の競争力強化
- VCM輸出拡大とプラントフル稼働の維持
- 塩素誘導品(塩ビ、酸化プロピレン、クロロメタン他)の収益力強化
- 液化水素プラント増設による水素価値向上



4 基本方針と施策(部門別)

1. 化成品セグメント

事業再構築・競争力強化の取り組み



ソーダ灰・塩カル事業強化

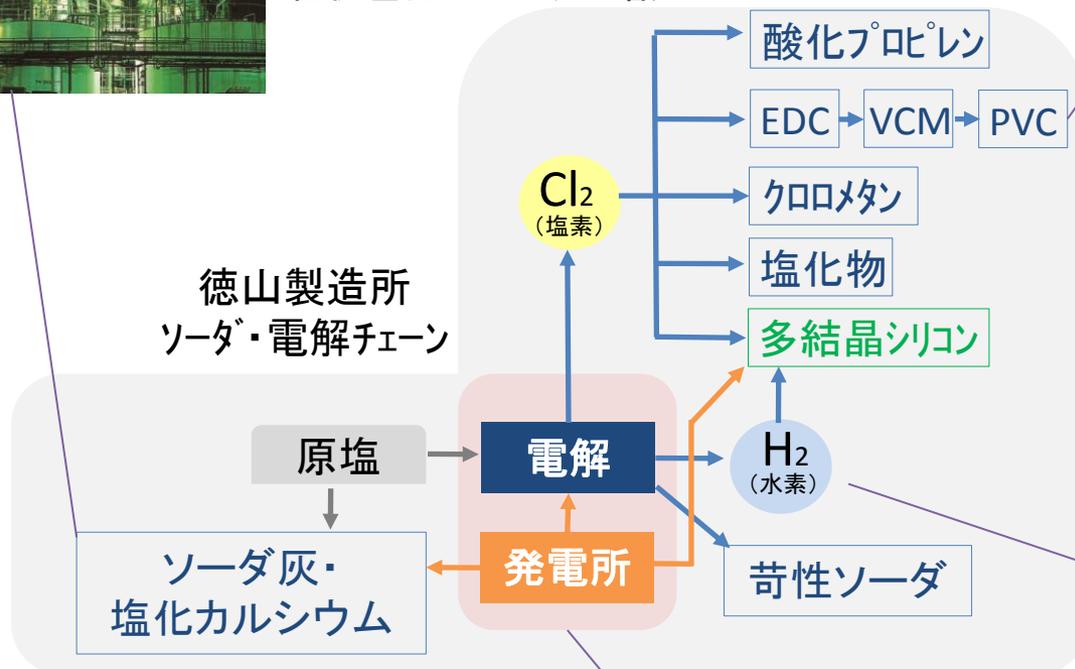
国内単一メーカーとして、安定品質、安定供給、最適物流体制を確保
粒状塩化カルシウム増産



汎用PVCの生産集約
VCM輸出拡大



液化水素製造能力を2倍に増強
(17年11月稼働)



自家発電+電解の競争力強化

④ 基本方針と施策(部門別)

2. 特殊品セグメント

基本方針

- 顧客から選ばれ続ける製品の供給と開発品の提案により、事業と収益の拡大を図る

施策

<多結晶シリコン(半導体向けグレード)事業>

- 最先端品を始めとする顧客要求品質を的確に把握し、品質世界一・コスト極小化を実現

<乾式シリカ事業>

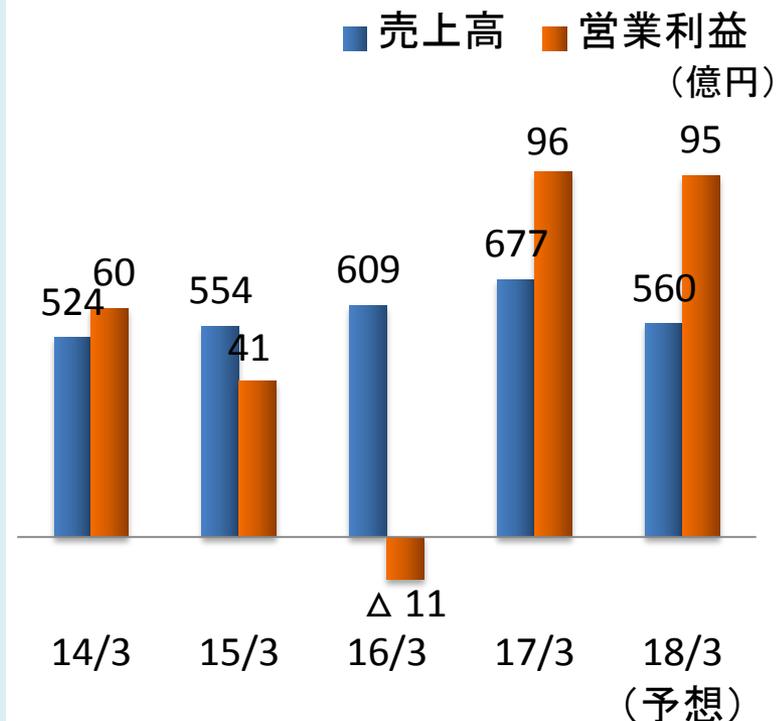
- シリコーン、CMP向けに続く高機能品の拡充
- 徳山化工におけるコストダウンと高付加価値化

<ICケミカル事業>

- 先端半導体向け製品の品質追求、拡販

<放熱材事業>

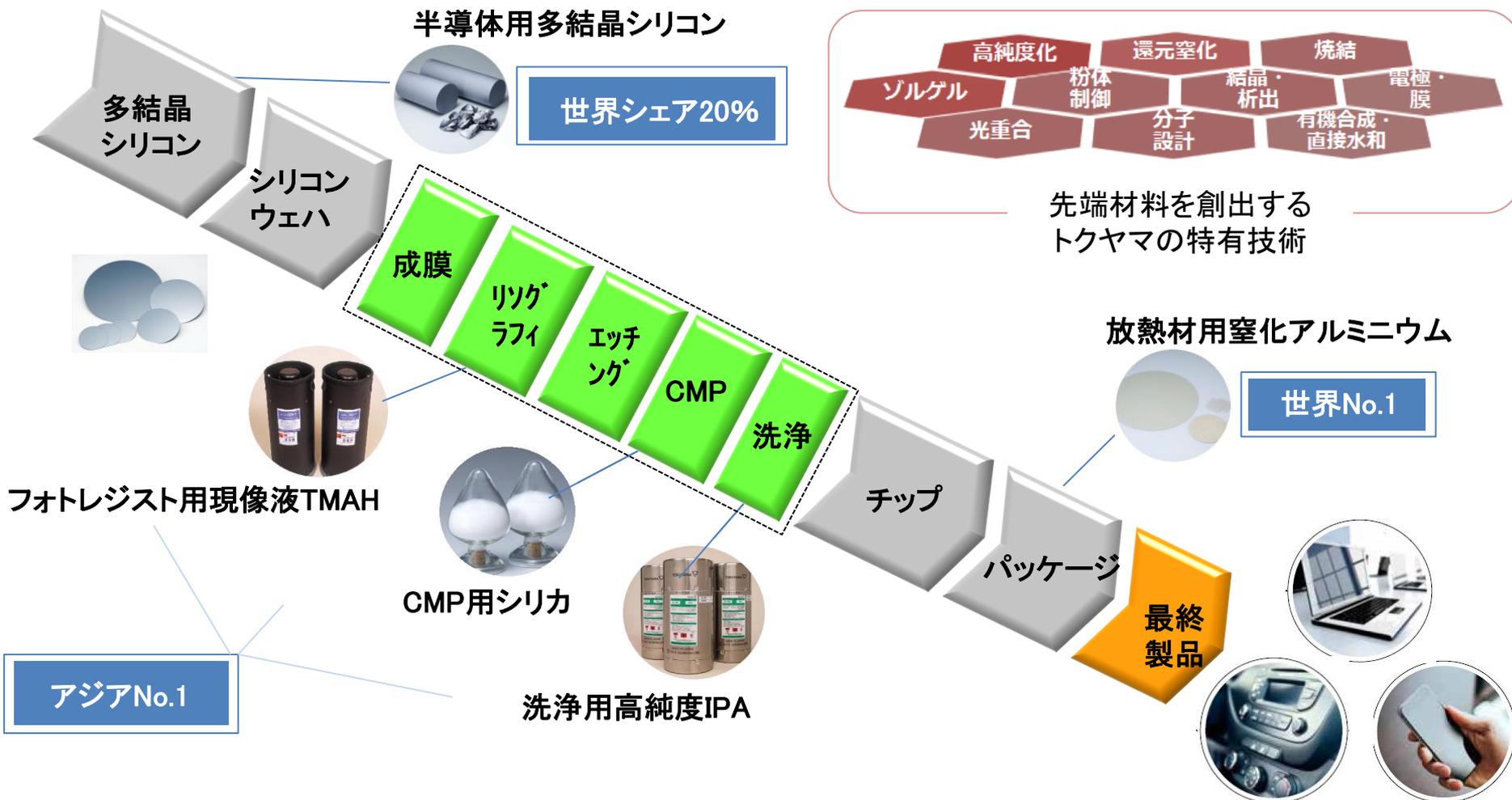
- 窒化アルミ粉末生産能力増強
(480→600トン/年、18年4月稼働)
- 窒化ホウ素、窒化アルミニウムフィラーの事業化



4 基本方針と施策(部門別)

2. 特殊品セグメント

ICTの進化を支えるトクヤマの半導体関連製品



2. 特殊品セグメント

ICTの進化を支えるトクヤマの半導体関連製品

半導体の大容量化・小型化に伴う
半導体の微細化・3次元化の進展



歩留まり悪化を引き起こす不純物、
残渣物を極限まで低減させた
超高純度材料を提供

- ・半導体用高純度多結晶シリコン
- ・電子工業用高純度薬品
(高純度IPA、TMAH)

車載用、産業機器、電鉄向け
パワーデバイスの高出力化・小型
化に伴う放熱材料の需要急増



独自の還元窒化法により、不純物の
極めて少ない高熱伝導率の放熱材
料を提供

- ・窒化アルミニウム粉末、フィラー
- ・窒化アルミニウムセラミックス
- ・窒化ホウ素

3. セメントセグメント

基本方針

- 事業環境の変化に柔軟に対応し、最適な製造・販売・物流体制を整備・構築する
輸出拡大による廃棄物処理収益の最大化、原価低減による競争力強化を図る

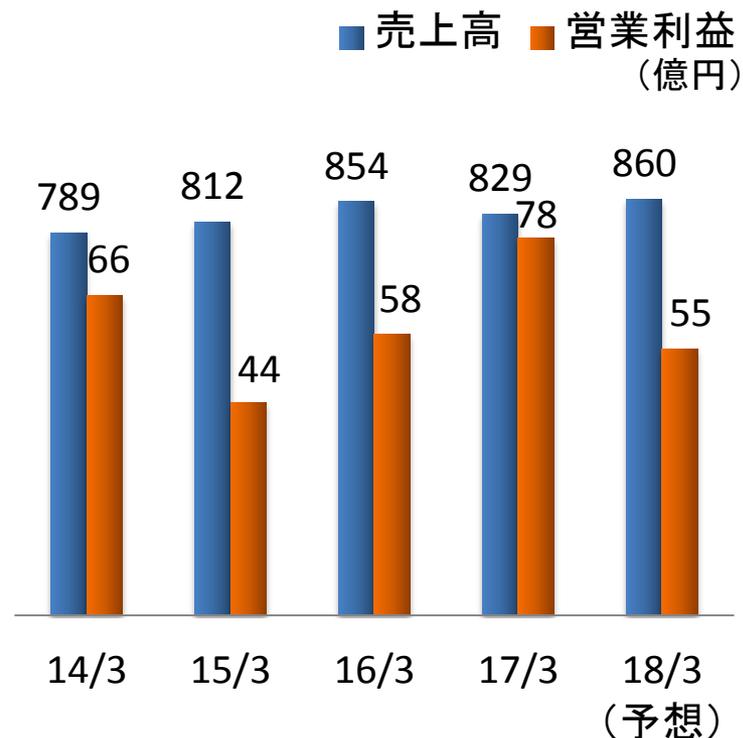
施策

<セメント事業>

- 生産効率及び原単位改善と廃棄物受入増を軸とした原価低減
- 4号キルンを最大限活用した輸出の拡大による収益確保
- トクヤマエムテックによるインフラの補修・補強事業の拡充

<資源環境事業>

- 原料系の最適化と可燃系廃棄物の活用促進及び燃料化プラント事業の最適化
- 廃石膏ボードリサイクルなど既存リサイクル事業の安定操業及び新たなリサイクル事業の創生



4 基本方針と施策(部門別)

3. セメントセグメント

セメント・クリンカ輸出拡大

2013年6月に買収したトクヤマニューカレドニアは、営業利益、キャッシュフローともに4期連続で大幅黒字を継続中。クリンカの輸出先としてもセメント部門の収益改善に寄与

・中長期では人口減に伴う日本国内需要の縮小が不可避。安定した輸出先の確保によるセメント工場の稼働維持を図るため、トクヤマニューカレドニアに続く海外粉砕工場の展開を検討・推進する



クリンカーシップローダー(徳山製造所)



トクヤマニューカレドニア

④ 基本方針と施策(部門別)

4. ライフアメニティーセグメント

基本方針

- 顧客起点の開発・製造・販売体制の確立・強化により、国内外の市場で優位なポジションを獲得、事業の拡大を図り、人々の生活・健康(QOL)の改善に貢献する

施策

<NF事業(微多孔質フィルム)>

- 中国事業の立て直し

<ファインケミカル事業>

- メガネ用調光材料のシェア拡大、用途開拓

<歯科器材事業(トクヤマデンタル)>

- 審美充填材料を中心とした海外展開の加速

<医療診断システム事業(エイアンドティー)>

- 江刺工場増設(17年9月～)による生産体制強化

<ポリオレフィンフィルム事業(サン・トックス)>

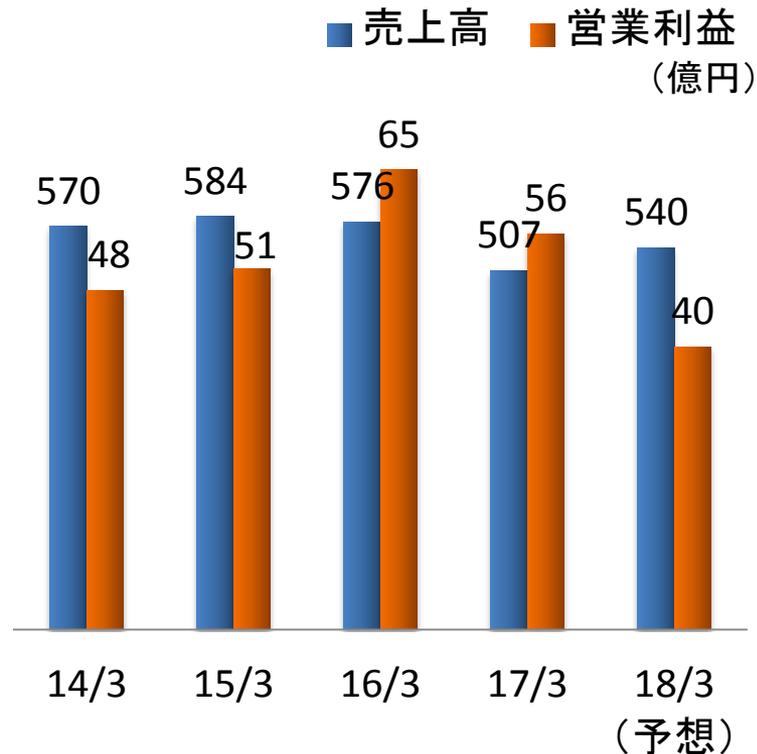
- 製造設備のS&Bによる生産性改善(17年10月～)

<イオン交換膜(アストム)>

- 海外大型案件への対応

<樹脂サッシ(エクセルシャノン)>

- ゼロエネルギーハウス(ZEH)向け拡販



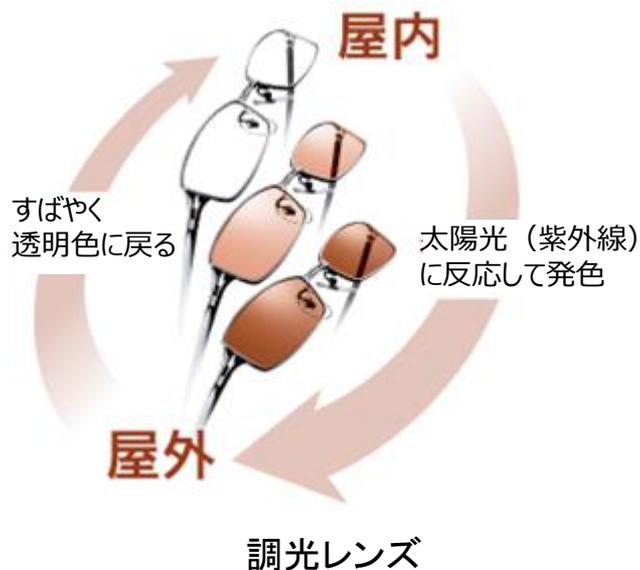
4 基本方針と施策(部門別)

4. ライフアメニティーセグメント

フォトクロミック材料(調光材料)

スポーツウェア・ドライブウェア用途に加え、有害紫外線への意識の高まり、高齢化にともなう緑内障など眼の疾患増加を背景に、フォトクロミック材料の使用が増大

- ・製品仕様に関する顧客ニーズへの対応など細やかな顧客対応、製品ラインナップの拡充によりシェア拡大を図る
- ・視認性向上、紫外線遮蔽などの特長を活かした新規用途の開拓



フォトクロミック材料とは

太陽光(紫外線)を照射することによって、無色からグレーやブラウンなどに発色し、照射を止めると再び無色の状態に戻る樹脂材料

当社製品の特長

- ・赤・青・黄の3原色発色による豊富なカラーバリエーション
- ・速い発色、退色速度
- ・夏場の高温下でも十分な発色性能
- ・優れた耐久性
- ・紫外線を99%以上カット



4 基本方針と施策(部門別)

5. 徳山製造所

コスト削減の進捗

	中期経営計画「再生の礎」 2020年度目標(15年度比)		2016年度実績(15年度比)	
港湾設備 増強	大規模拡張による石炭取扱量増加で貯炭費用を圧縮	11億	出荷設備の能力増強工事を開始 投資に伴う費用負担増	▲1億
修繕費 効率化	プロジェクトチームを組成、 外部知見も活用し活動推進	10億	外部知見も活用し、業務フローの見直し、 修繕費の見える化推進	8億
原単位 改善	戦略更新投資も含め検討し、 原単位を継続的に改善	6億	プラント毎に原単位を継続的に改善 部門横断的アプローチ検討継続	4億
物流費 削減	製造所長主導で物流の 全体最適追求活動を強化	5億	構内遊休地に倉庫建設開始し、 倉庫費削減を目指す、適正在庫水準を検討中	1億
その他	定修期間短縮を通じた売電 増加やその他のコスト削減	8億	定修期間短縮、照明のLED化積極推進 を通じた売電増加、その他のコスト削減	11億
合計	2020年度に目標とする 全社コスト削減額	40億	2016年度のコスト削減・収益改善額	23億



5 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. キャッシュ・フローの状況
3. 営業利益増減分析
4. 営業外損益の内訳
5. 特別損益の内訳
6. セグメント別売上高／営業利益
7. 主要指標
8. 業績推移
9. 主要原燃料価格推移
10. 設備投資額・減価償却費推移
11. 有利子負債残高推移
12. フリー・キャッシュフロー推移
13. 主要グループ会社
14. 多結晶シリコン市場動向
15. トクヤママレーシア株式譲渡のスキーム

1. 連結財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減	
			金額	%
売上高	3,071	2,991	△80	△3
売上原価	2,206	2,013	△193	△9
販管費	634	580	△53	△8
営業利益	230	397	+166	+72
営業外損益	△53	△57	△3	-
経常利益	177	339	+162	+92
特別損益	△1,042	45	+1,087	-
税前当期純損益	△865	385	+1,250	-
法人税等	130	△148	△278	-
非支配株主損益	10	12	+1	+18
親会社株主に帰属する 当期純損益	△1,005	521	+1,527	-

5 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)

貸借対照表

(億円)

	2016年3月末	2017年3月末	増減	
			金額	%
資産合計	4,013	4,244	+230	+6
流動資産	2,437	2,466	+28	+1
有形固定資産	1,197	1,192	△5	△0
無形固定資産	63	47	△16	△25
投資その他の資産	314	537	+223	+71

	2016年3月末	2017年3月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,411	2,884	△526	△15
流動負債	1,132	791	△340	△30
固定負債	2,279	2,093	△186	△8
純資産合計	602	1,359	+757	+126

5 補足資料

2. キャッシュ・フローの状況

連 結

(億円)

	2016年 3月期	2017年 3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー①	300	200
投資活動によるキャッシュ・フロー②	134	△100
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	434	99
財務活動によるキャッシュ・フロー④	△376	△119
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	△7	△3
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	50	△23
現金及び現金同等物の期首残高⑦	1,161	1,211
連結の範囲変更及び連結子会社の決算期変更に伴う増減額⑧	0	-
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	1,211	1,188

5 補足資料

3. 営業利益増減分析

(前 期 比) (億円)

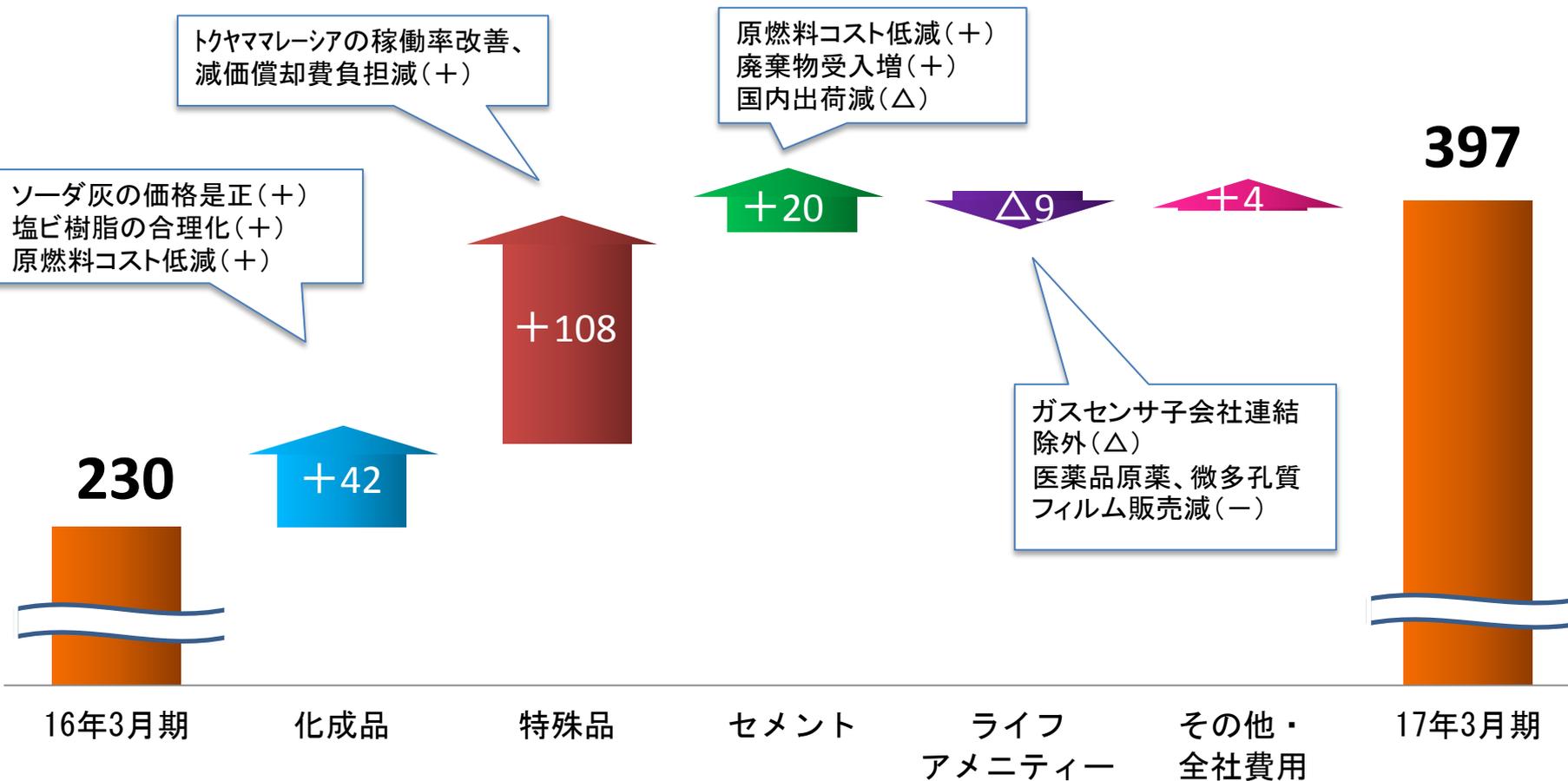
セグメント別

トクヤママレーシアの稼働率改善、
減価償却費負担減(+)

ソーダ灰の価格是正(+)
塩ビ樹脂の合理化(+)
原燃料コスト低減(+)

原燃料コスト低減(+)
廃棄物受入増(+)
国内出荷減(Δ)

ガスセンサ子会社連結
除外(Δ)
医薬品原薬、微多孔質
フィルム販売減(-)

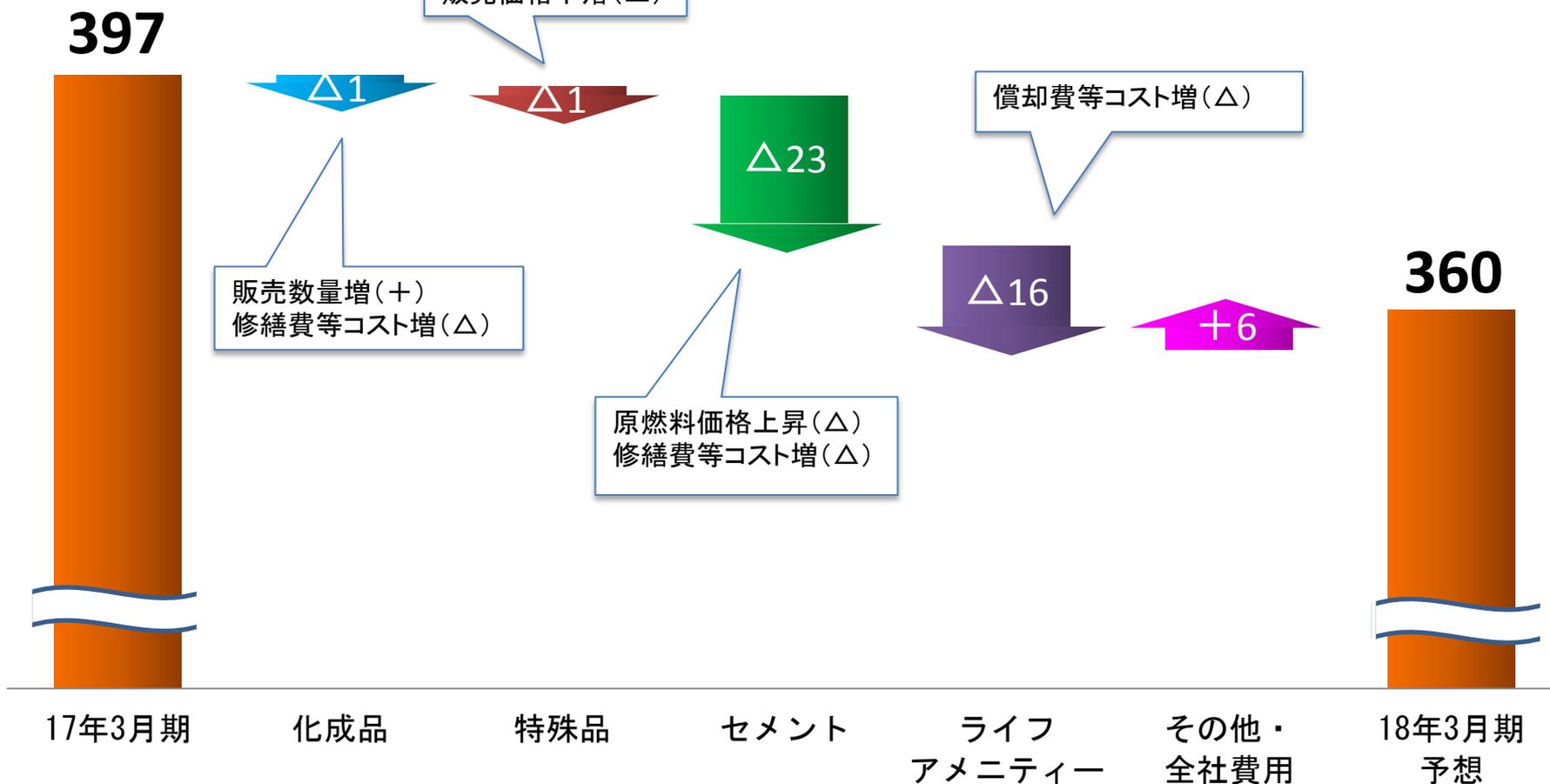


3. 営業利益増減分析

(予想の前期比)

(億円)

セグメント別



4. 営業外損益の内訳

連
(前 期 比) 結

(億円)

		2016年3月期	2017年3月期	差損益	備 考
営業外収益	受取利息・配当金	5	3	△2	
	その他	27	28	+0	
	計	33	31	△1	
営業外費用	支払利息・社債利息	46	42	+4	
	その他	40	46	△6	試作費用 △12 借入関連費用減 +3
	計	86	88	△1	
営業外損益		△53	△57	△3	

(注)差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

5. 特別損益の内訳

連 結
(前 期 比)

(億円)

	2016年3月期	2017年3月期	差損益	備 考
特別利益	214	73	△141	固定資産売却益減 △141 投資有価証券売却益減 △61 補助金収入 +22 関係会社株式売却益 +19
特別損失	1,257	27	+1,229	減損損失(前期) +1,230
特別損益	△1,042	45	+1,087	

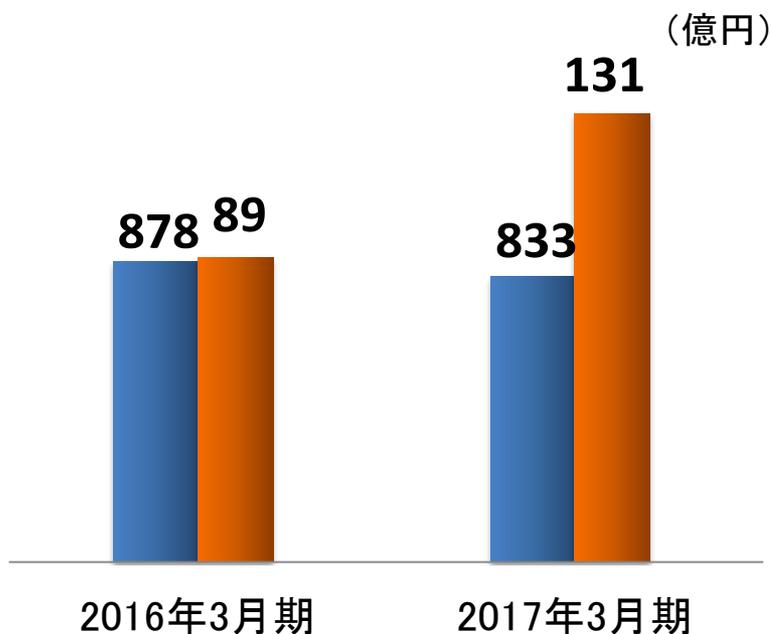
(注)差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

6. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

化成品

減収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

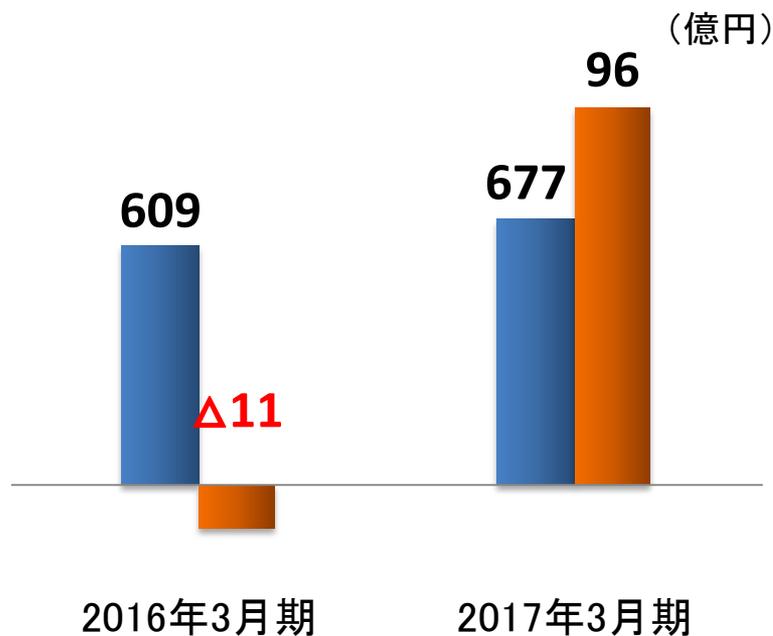
- (苛性ソーダ)
 - ・国内出荷は堅調も、販売価格軟化により減収
- (塩ビモノマー)
 - ・アジア向け出荷は堅調も、国産ナフサ価格の下落に伴う販売価格の軟化で減収
- (塩ビ樹脂)
 - ・千葉工場停止等による損益改善
- (ソーダ灰・塩化カルシウム)
 - ・販売数量減も、販売価格是正により売上高は横ばい

6. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

特殊品

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

(半導体用多結晶シリコン)

- ・スマートフォンなどモバイル機器の高機能化を背景に販売数量増

(太陽電池用多結晶シリコン)

- ・トクヤママレーシアの稼働率改善により、販売数量増

(乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

(電子工業用高純度薬品)

- ・半導体用途で出荷堅調も、円高で減収

(窒化アルミニウム)

- ・半導体製造装置向けを中心に販売数量増

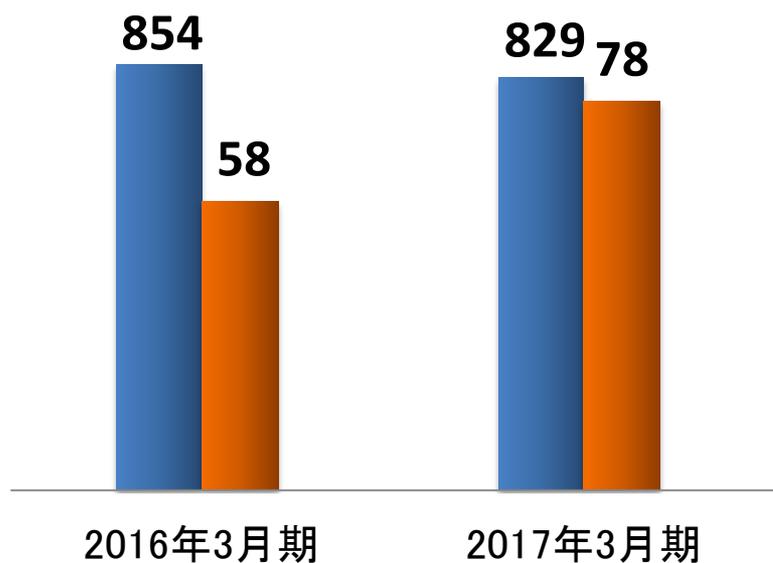
6. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

セメント

減収増益

■ 売上高 ■ 営業利益

(億円)



定性情報

(セメント)

- ・需要旺盛なアジア地区への輸出は増加したものの、円高等による輸出価格下落、官公需・民需の低迷による国内出荷の減少で減収
- ・連結子会社は、前年同期の大型案件向け出荷の反動で減収

(資源環境事業)

- ・石炭灰等の廃棄物受入数量増

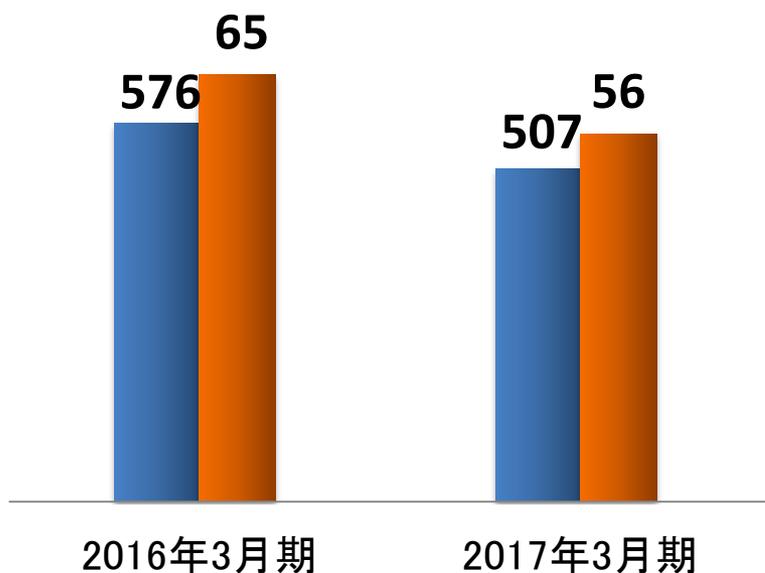
6. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

ライフアメニティー

減収減益

■ 売上高 ■ 営業利益

(億円)



定性情報

(医薬品原薬)

・前年同期に好調だったことの反動で販売数量減

(プラスチックレンズ関連材料)

・フォトクロミック材料の販売堅調で増収

(微多孔質フィルム)

・海外子会社での紙おむつ向け販売数量減

(ポリオレフィンフィルム)

・コンビニ向けを中心に出荷堅調

・原料価格下落に伴う販売価格の軟化

(歯科器材)

・新製品、海外向けの販売数量増で増収

(医療診断システム)

・血液検査向けの販売数量増

(ガスセンサ)

・フィガロ技研が持分譲渡により2Qから連結除外

7. 主要指標

連 結

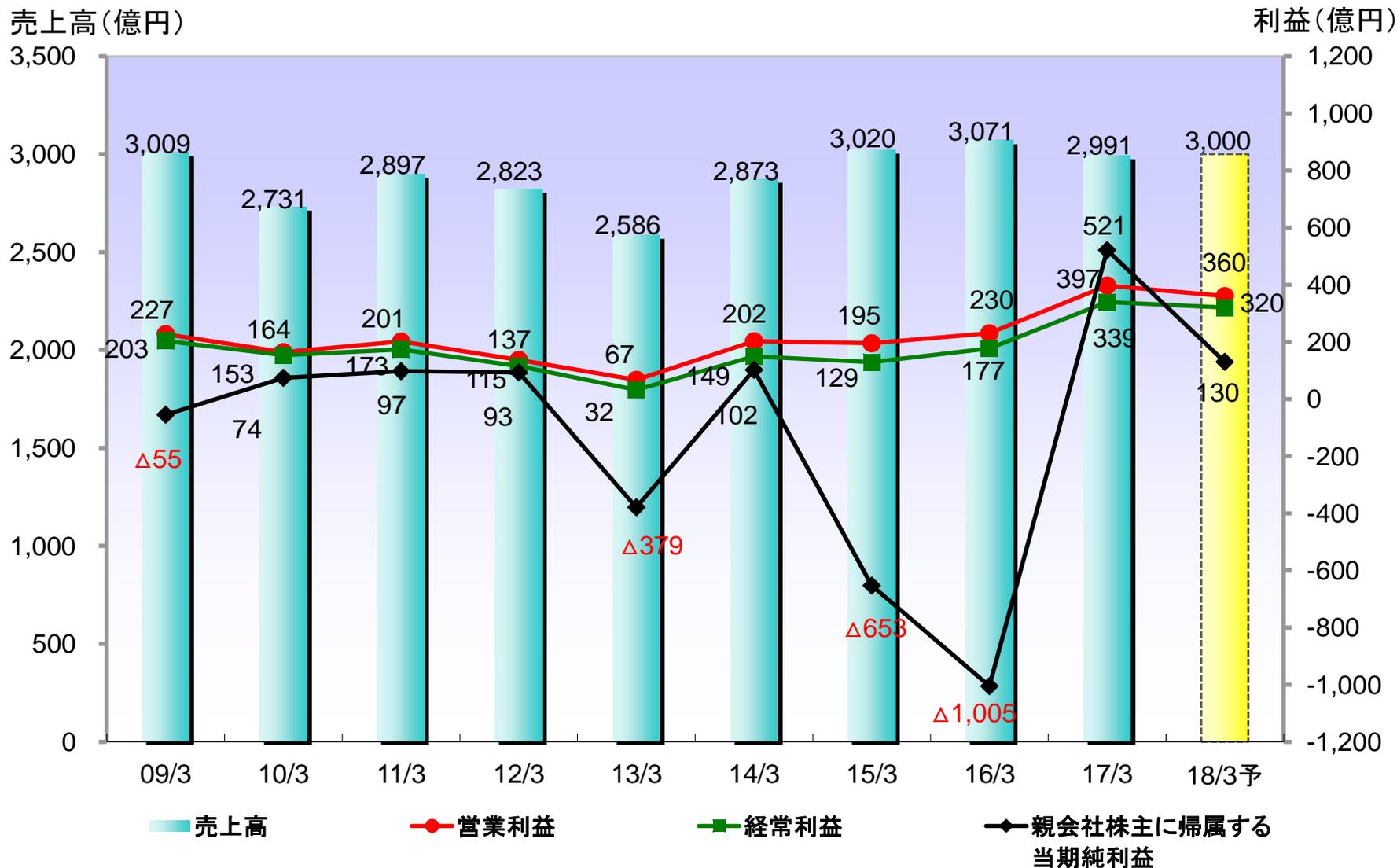
(前期比)		2016年3月期	2017年3月期	増 減
設備投資額	億円	139	173	+34
減価償却実施額	億円	200	142	△58
研究開発費	億円	85	75	△10
金融収支	億円	△41	△39	+1

(前期末比)		2016年3月末	2017年3月期	増 減
有利子負債	億円	2,441	2,139	△301
期末人員	人	5,759	5,406	△353

(予想の前期比)		2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	増 減
設備投資額	億円	173	207	+34
減価償却実施額	億円	142	146	+4
研究開発費	億円	75	90	+14

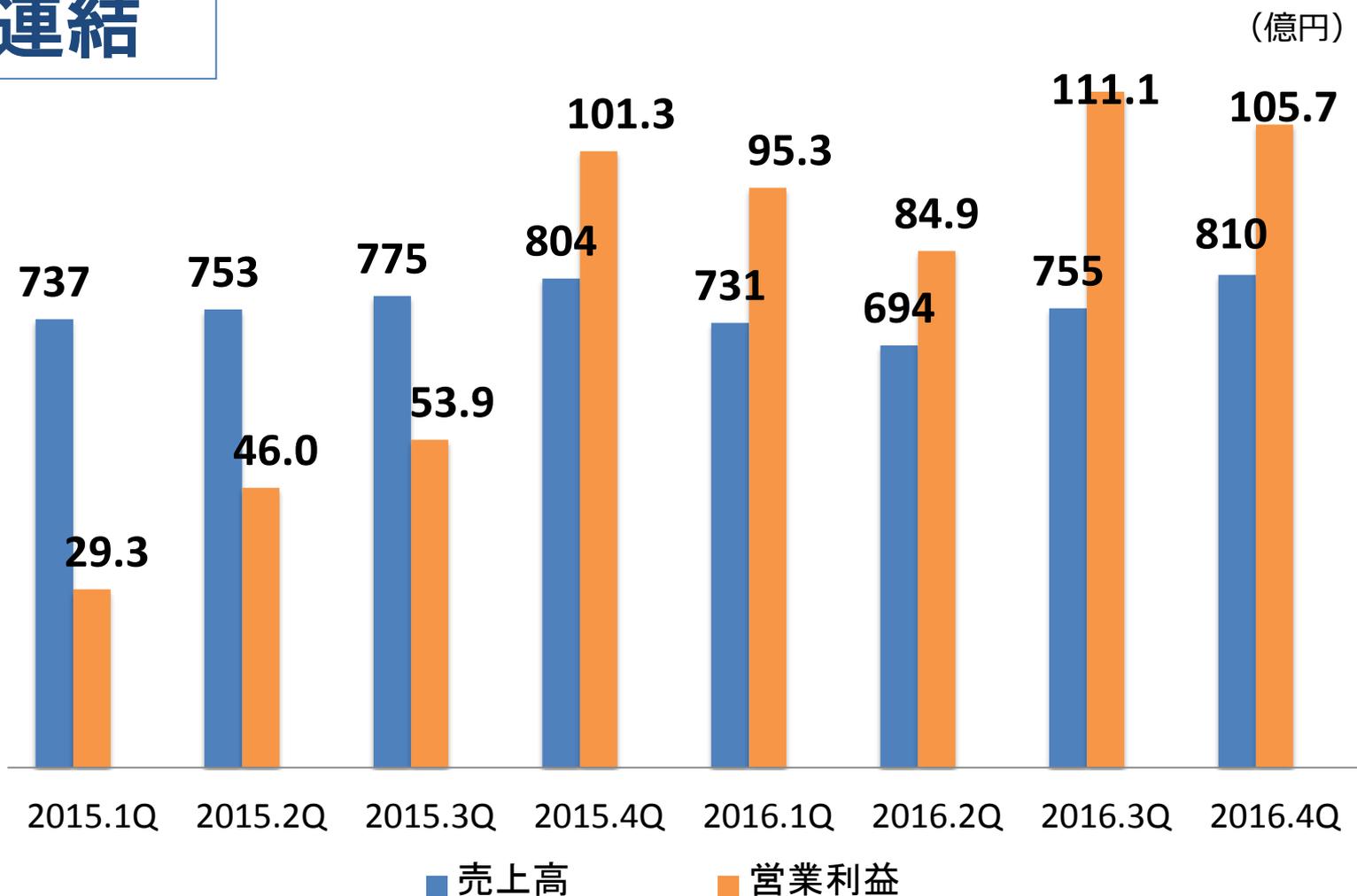
8. 業績推移

連 結 (通 期)



8. 業績推移 (四 半 期)

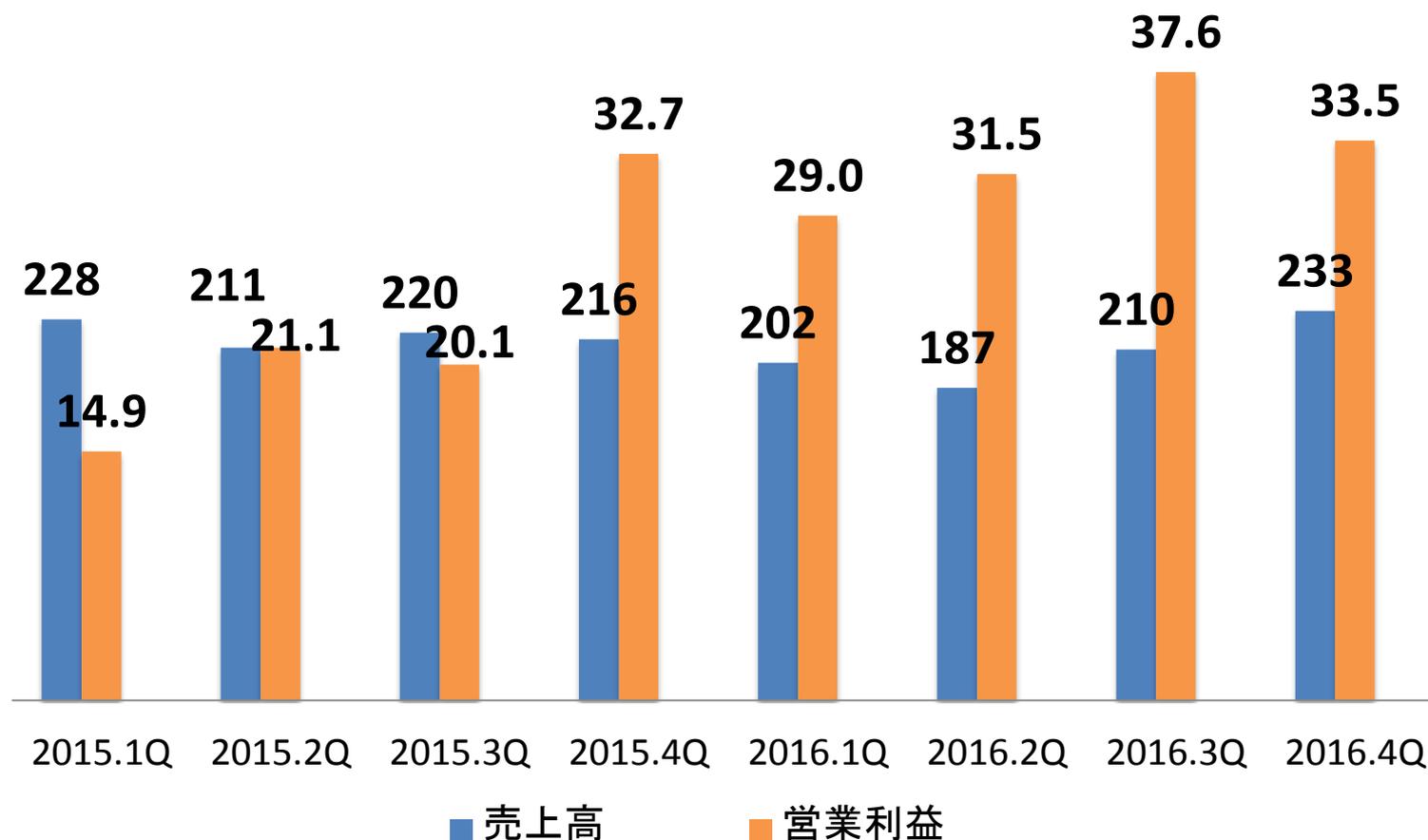
連結



8. 業績推移 (四 半 期)

化成品

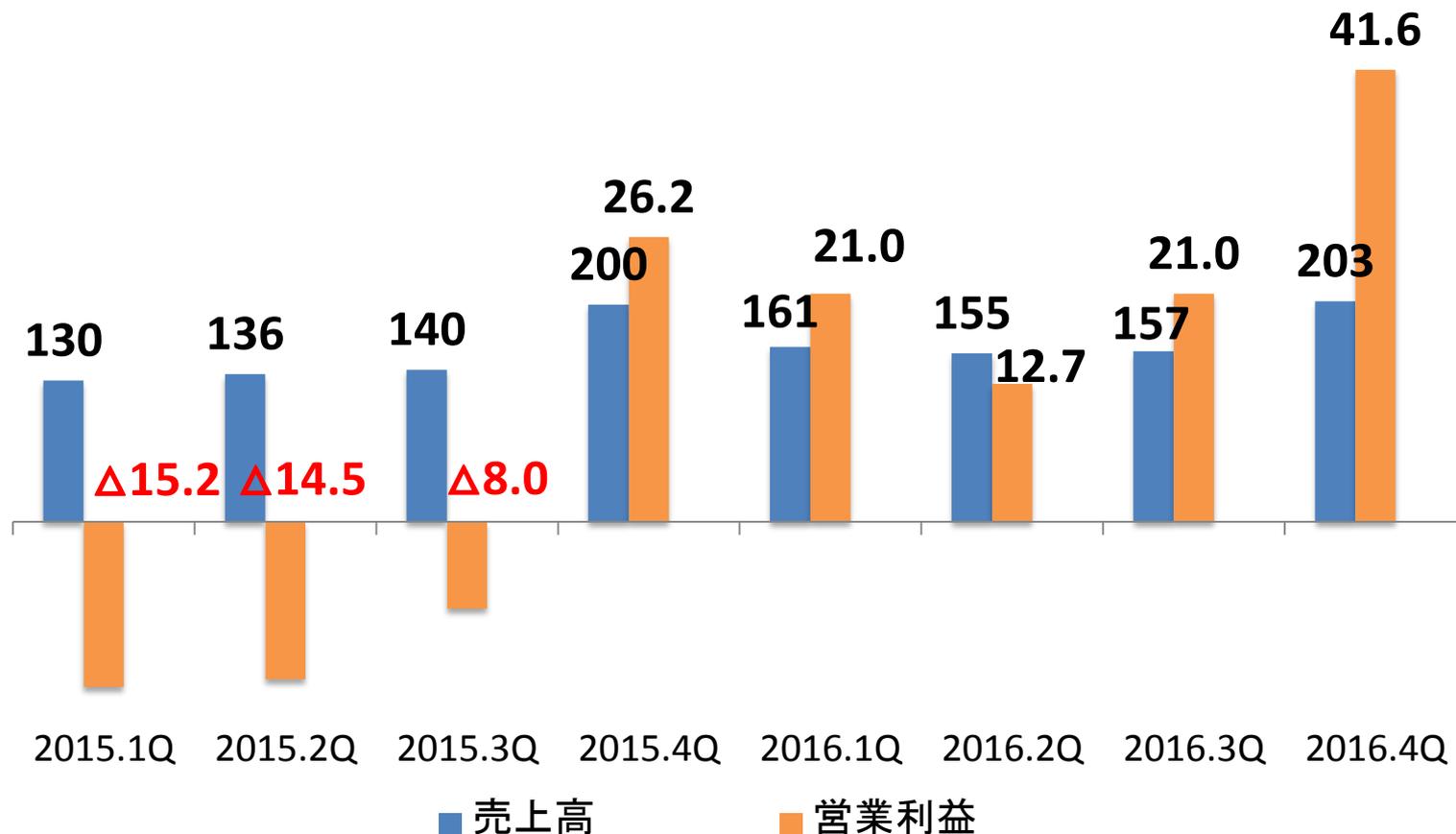
(億円)



8. 業績推移 (四 半 期)

特殊品

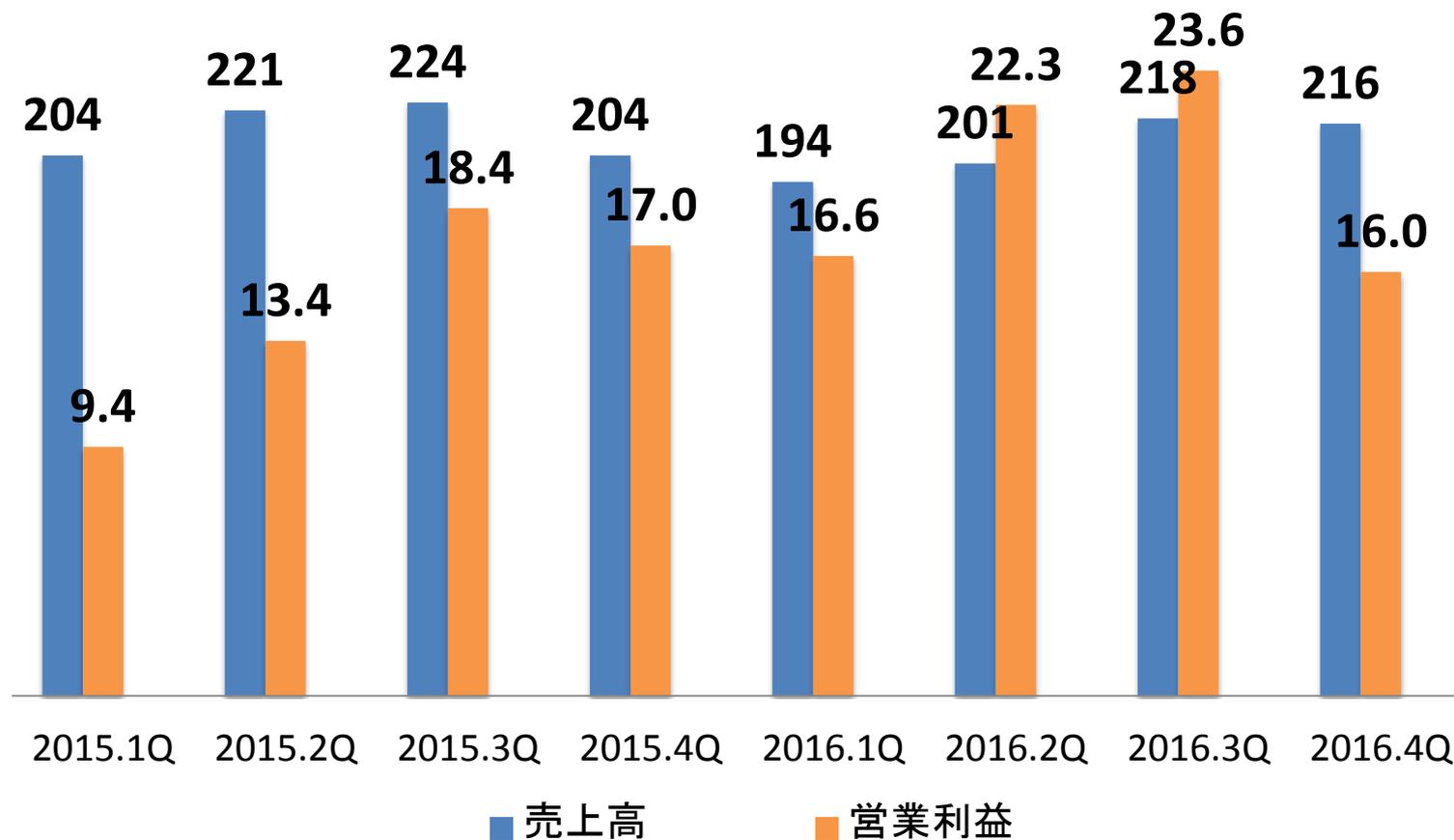
(億 円)



8. 業績推移 (四 半 期)

セメント

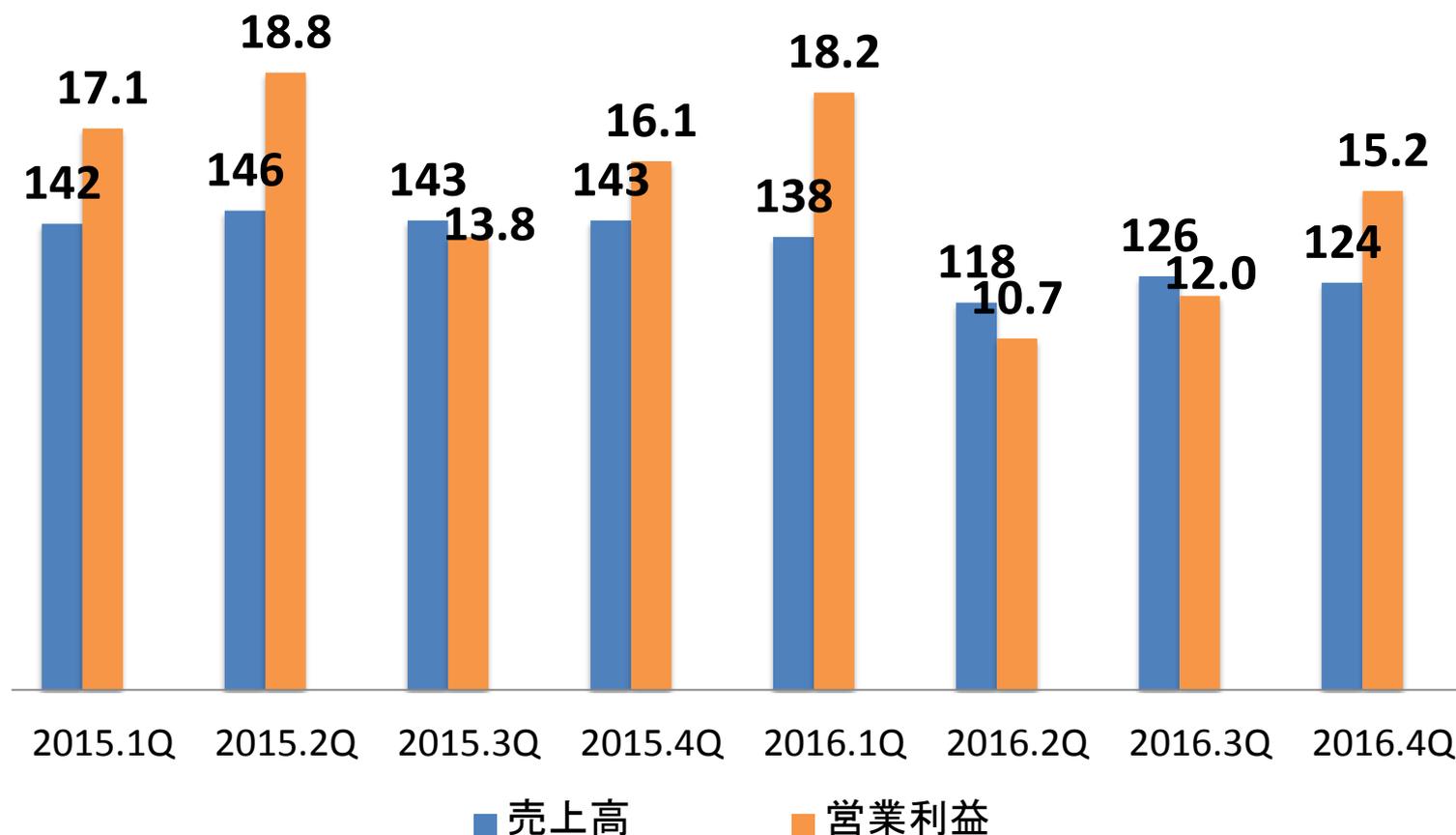
(億円)



8. 業績推移 (四 半 期)

ライフアメニティー

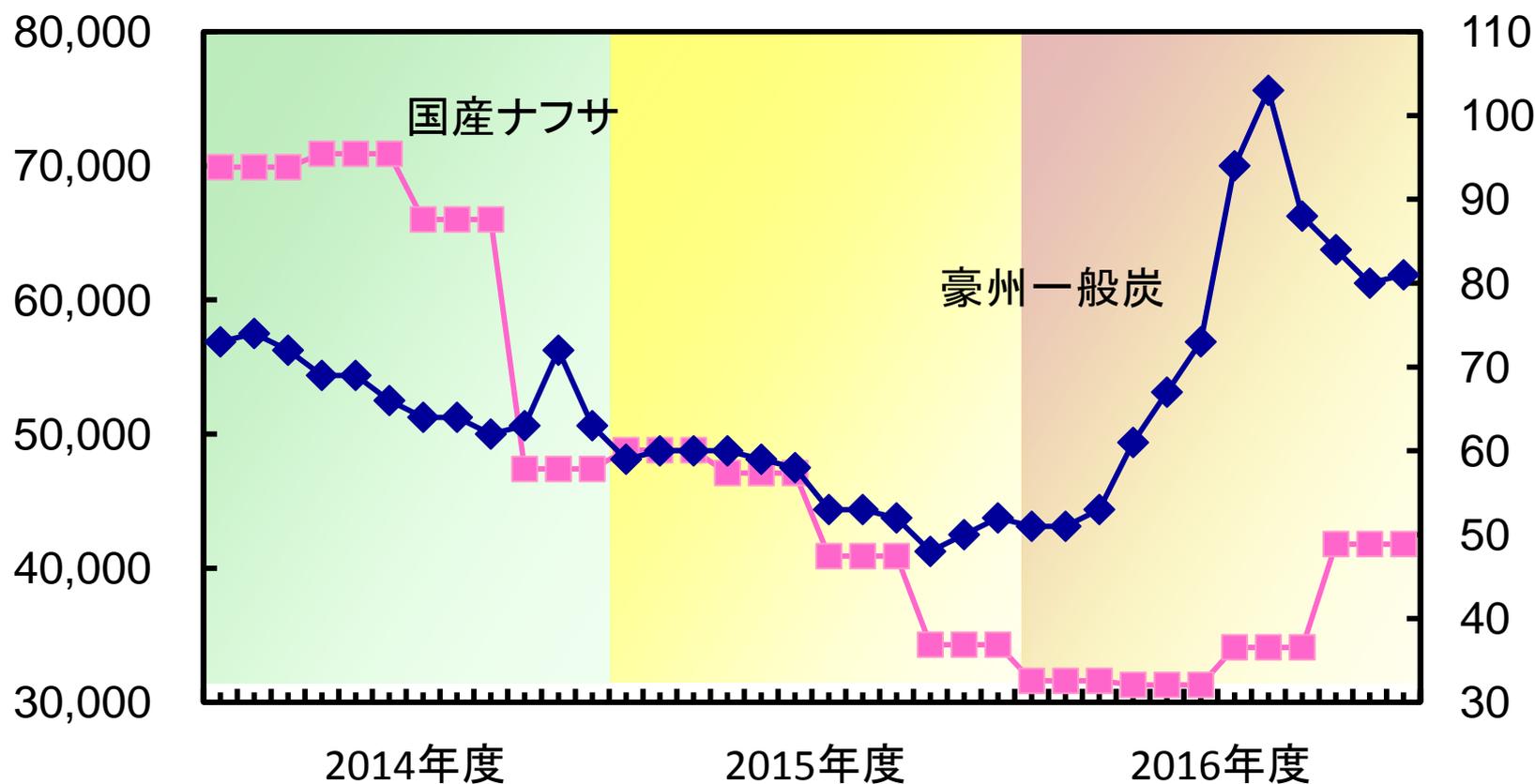
(億円)



9. 主要原燃料価格推移

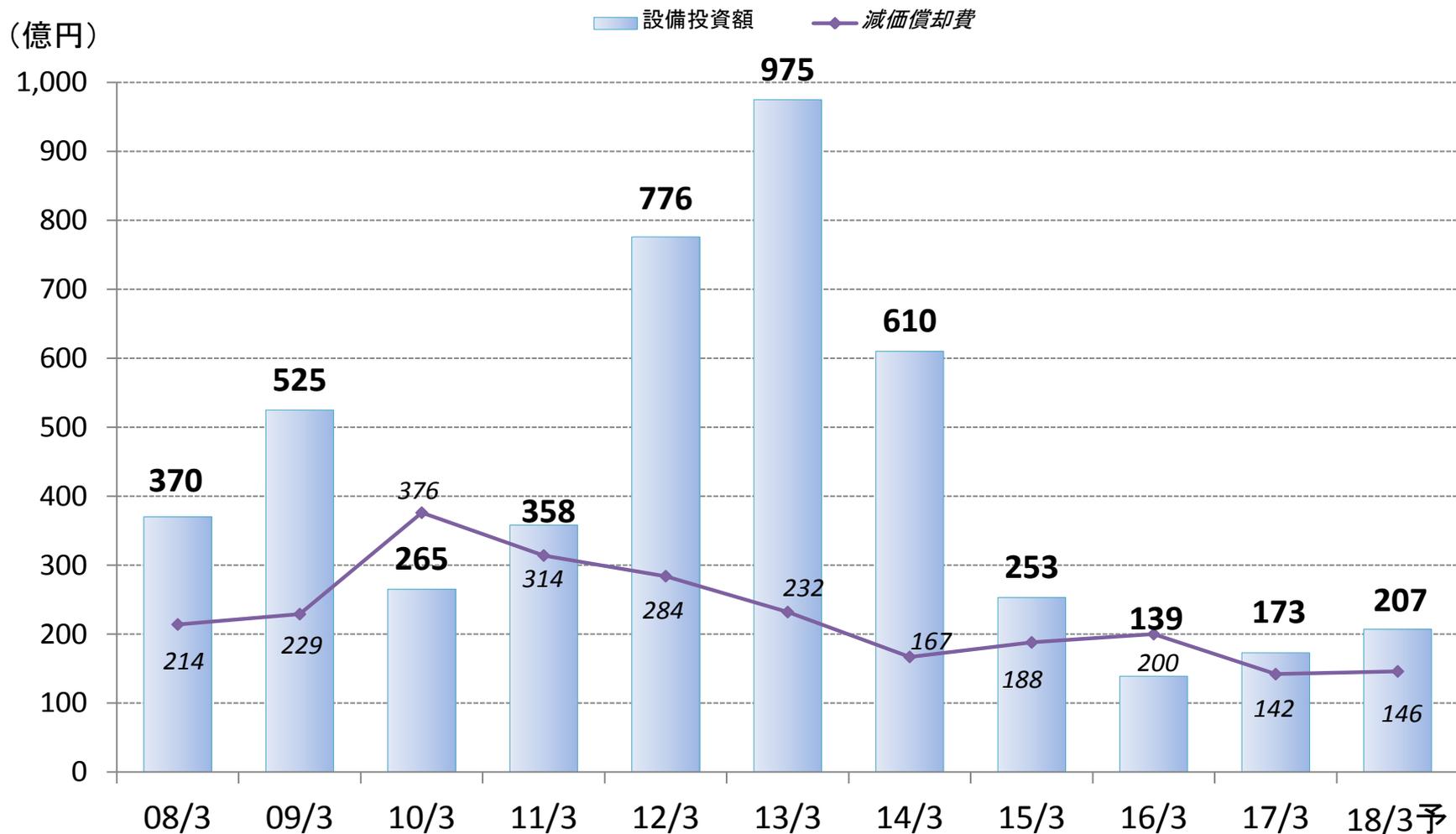
国産ナフサ価格
(円/kl)

豪州一般炭スポット価格
(\$/トン)



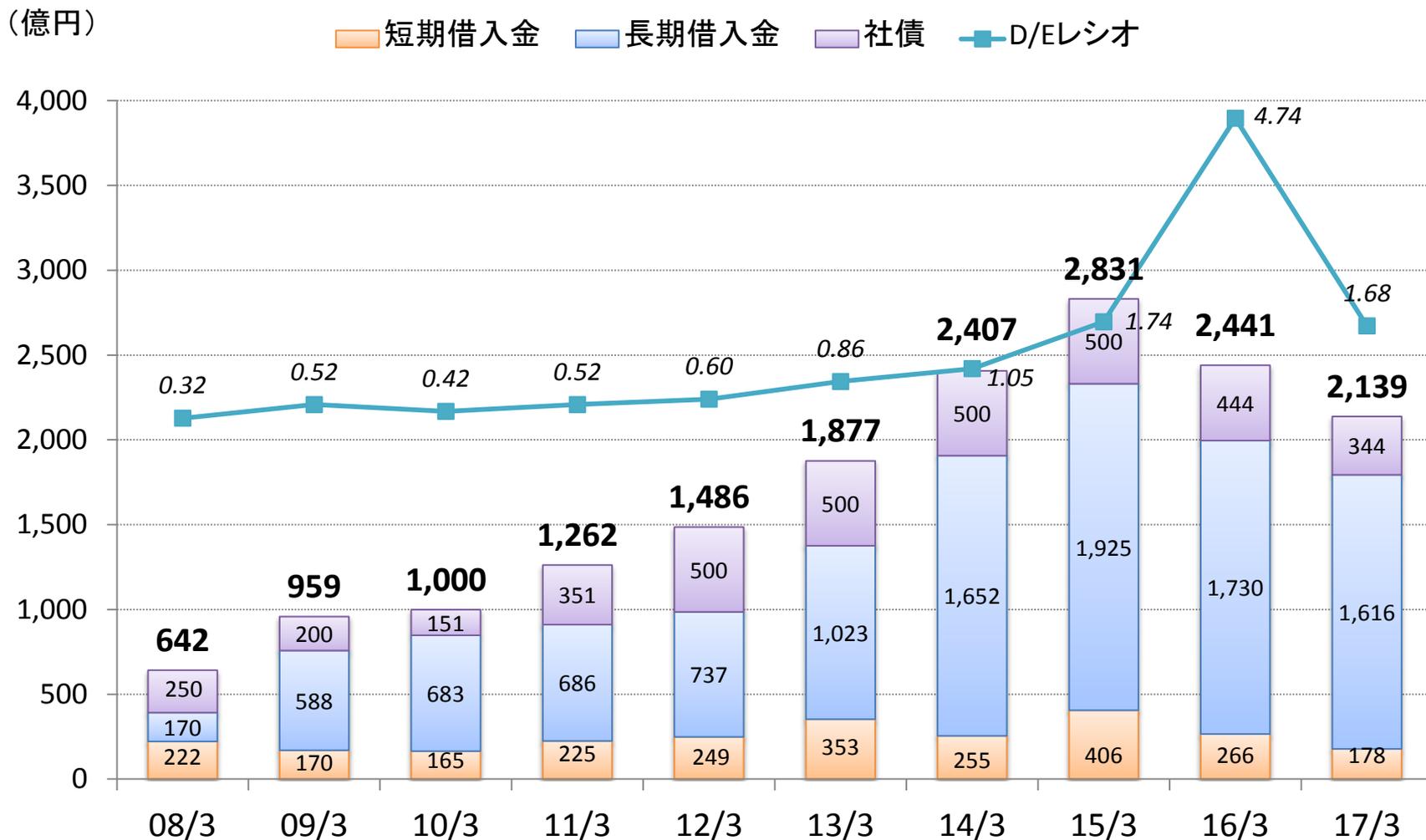
10. 設備投資額・減価償却費推移

連 結



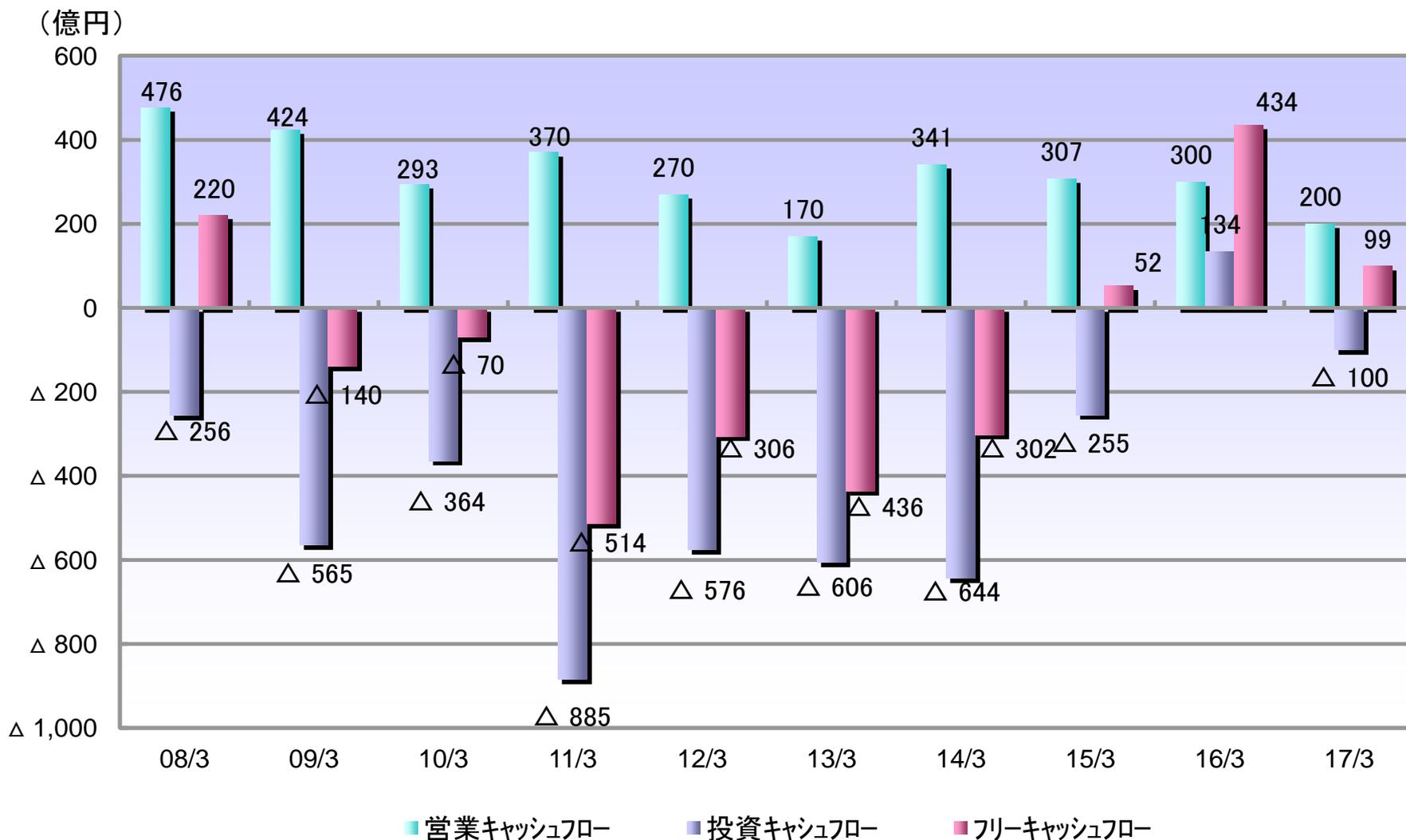
11. 有利子負債残高推移

連 結



12. フリー・キャッシュフロー推移

連 結



13. 主要グループ会社

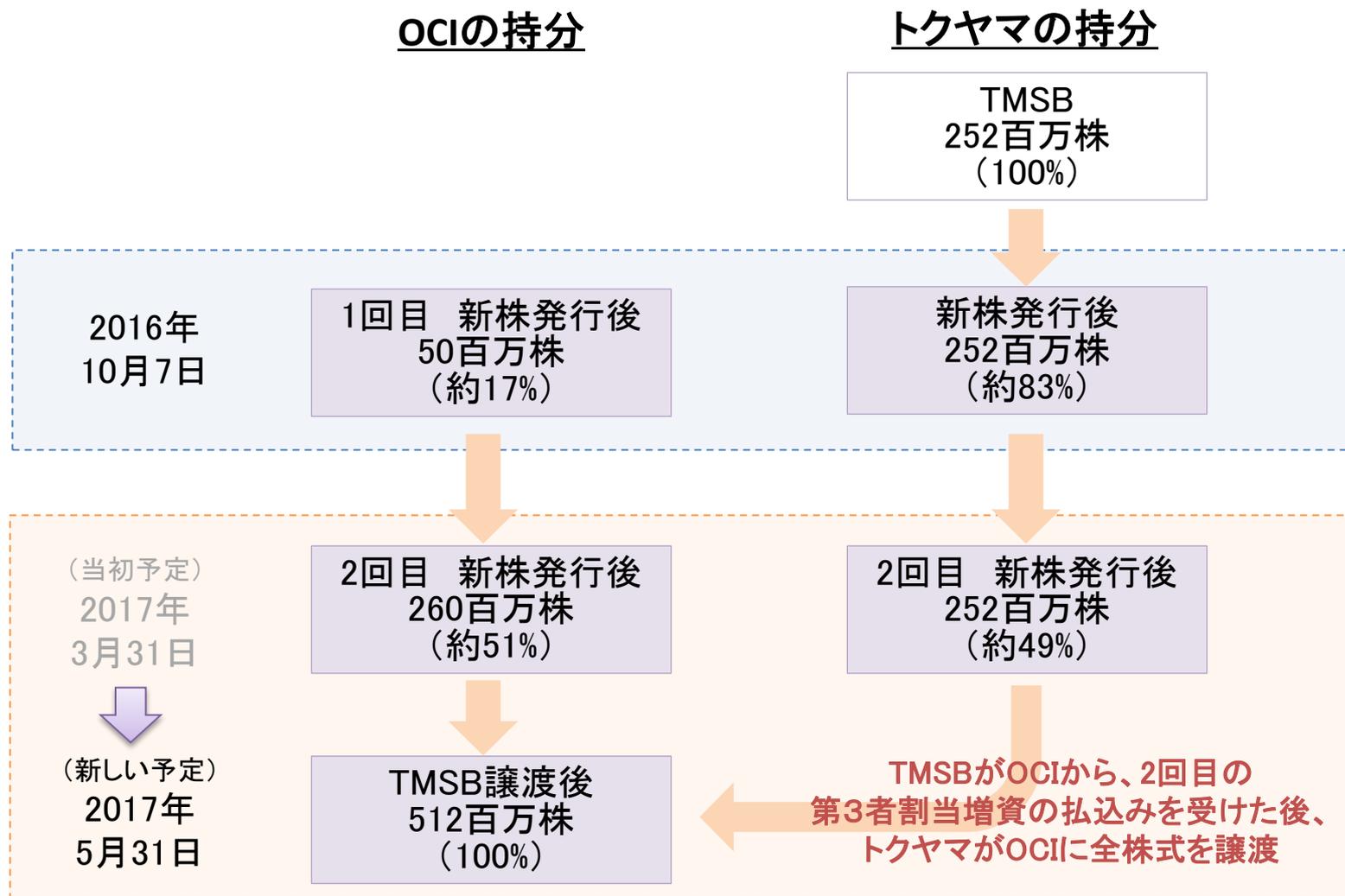
	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高(百万円)	
					16年3月期	17年3月期
①	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	21,896	21,324
②	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	300	80	17,419	16,289
③	トクヤマ・セントラルソーダ(株)	ソーダ灰・塩化カルシウムの仕入販売	10	65	14,989	15,225
④	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	16,265	15,041
⑤	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	14,290	12,498
⑥	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	12,013	11,934
⑦	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	10,138	10,234
⑧	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	6,476	6,426
⑨	徳山化工(浙江)(有)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	377 百万元	100	6,262	6,262

14. 多結晶シリコン市場動向

太陽電池用多結晶シリコンのスポット価格推移



15. トクヤママレーシア株式譲渡のスキーム



*TMSB: トクヤママレーシア

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

Chemistry with a heart

TOKUYAMA

